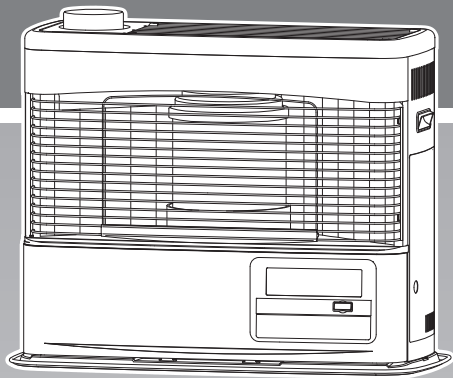


CORONA

半密閉式石油ストーブ 取扱説明書

〈保証書付〉保証書は裏表紙に印刷されています。

正しく使って上手に節約



型式 エス ブイ **SV-7020PK** ピーケー SVタイプ
ユーエイチ **UH-7720PK** ピーケー UHタイプ
煙突式輻射
煙突式輻射+床暖

このたびは、コロナ石油ストーブをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に大切に保管してください。



もくじ

	ページ
1.特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください)	1~4
※灯油の廃棄について	4
2.使用する場所	4
3.各部の名称	5~7
●外観図・構造図	5
●表示部の名称と働き	6
●操作部の名称と働き	7
4.使用前の準備	8~10
●燃料	8
●給油	8
●運転開始前の準備と確認	9~10
5.使用方法(使い方)	10~20
●運転開始(点火)	10~12
●運転停止(消火)	13
●消火後、再点火するときの注意	13
●室温の調節(自動運転)	13
●火力調節(手動調節-手動運転)	14
●エコ運転	14
●床暖パネルの温度調節	15
●給水お知らせ	15
●現在時刻の合わせ方	15
●タイマーの使用法	16~17
●灯油使用量	18
●使用上の注意	19
●自己診断モニタについて	20
6.安全装置	21
7.その他の装置	22
8.日常の点検・手入れ	23~25
9.定期点検	25
10.設計上の標準使用期間	26
11.故障・異常の見分け方と処置方法	27~28
12.部品交換のしかた	29
13.保管(長期間使用しない場合)	29
14.仕様	30~31
15.アフターサービス	31
16.据付け・移設	32~35
工事編	
1.特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください)	36~37
2.開こん	38
3.据付け	38~41
4.煙突の取付け	41~42
5.試運転	43~45
6.廃棄するときの注意	45
■お客様ご相談窓口	46
■保証書	裏表紙

1. 特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただきあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文中のマークは、次の意味を表します。

	このマークは、「注意」していただく内容です。
	このマークは、してはいけない「禁止」を表しています。
	このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。

警告 (WARNING)

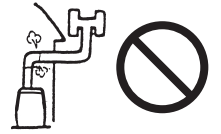
● ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも火災の原因になります。



● 煙突外れ危険

煙突が外れたまま使用しないでください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



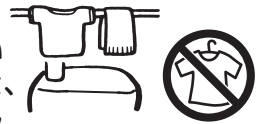
● 煙突閉そく危険

煙突がつまったり、ふさがれたまま使用しないでください。閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



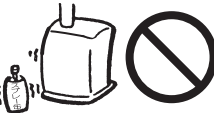
● 衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。衣類が乾燥すると、ストーブの熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。



● スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどをストーブの上や前に(周囲に)放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。



● 可燃物近接厳禁

カーテン・布団や毛布など燃えやすいものそばなどで使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。可燃物との離隔距離については標準据付け例(32ページ)を参照してください。



● 低温やけどに注意 (UHタイプ)

長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。比較的低い温度(40~60℃)でも低温やけどや脱水症状の原因となります。



● 改造使用の禁止

改造して使用しないでください。また、ストーブや煙突には床暖房用の熱交換器などを取り付けしないでください。火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。安全装置の無効化など機器の安全性を損なう改造は火災など思わぬ事故の原因になります。



注意 (CAUTION)

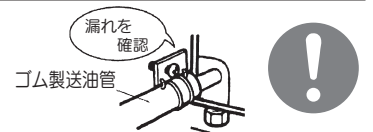
● 給油時消火

火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。



● 油漏れ確認

油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。



● 異常・故障時使用禁止

油漏れやにおい、すすの発生、炎の色(赤火)、エラーを繰り返すなど異常や故障と思われるときは使用しないでください。事故の原因になります。「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って処置してください。



1.特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）

⚠ 注意 (CAUTION)

● ゴム製送油管の点検・交換

ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがなくても3年に1度は新しいものに交換されることをお奨めします。交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。



● 高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部（枠上部、前面ガードなど）、煙突に手などふれないでください。やけどのおそれがあります。



● 小さいお子様のいるご家庭では、特に注意してください。

● やかんのせ禁止

やかんなどをのせないでください。振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。



● 分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。不完全な修理は、危険です。



● 腰をかけたり物をのせない

ストーブの上ののったり、腰をかけたりしないでください。ストーブの故障や、やけどのおそれがあります。ストーブの上に花瓶や水を入れたものなどを置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。



● 換気扇使用禁止

ストーブを使用している同室内で換気扇を使用しないでください。立消えて爆発燃焼するおそれがあります。また、換気口・給気口は常に確保し、物などでふさがないでください。



● シリコン配合製品を使用しない

ストーブの故障の原因となることが表示されているヘアケア製品などは、シリコンが配合されています。ストーブと同時に使用しないでください。燃焼部にシリコン酸化物が付着し、点火ミスや途中消火などの原因となります。注意表示がなくてもシリコンが配合されている製品（化粧品類・保湿用クリーム、衣類の防水剤・柔軟剤、家具などのつや出し剤など）も同時使用は控えてください。やむなくご使用になる際はストーブの運転を一時的に停止し、使用後は換気を十分に行ってから運転を再開してください。シリコン配合製品が原因で修理を依頼されたときは、保証期間内でも有料となります。



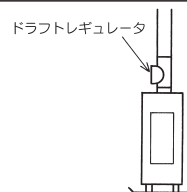
※ 製品表示ラベルの記載内容

例) 「○○シリコン○○」「○○シリコン○○」「○○メチコン○○」「○○シラン○○」
「○○シロキサン○○」「シリカ」と成分表示されている場合があります。

● ドラフトレギュレータの取り付け

煙突の引き（ドラフト）が強いと燃焼不良が発生します。次の煙突設置の場合は必ずダブルドラフトレギュレータ（別売品DR-1）を取り付けてください。

- ・ 集合煙突に接続する場合
- ・ 標準寸法以上に立ち上がりが高い場合
- ・ 風が強くて炎が沈むような場合



● 電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、傷付けたり束ねたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。火災や感電の原因になります。



● 電源の接続

電源は適正配線された単相100Vのコンセント以外は使用しないでください。発熱・発火の原因になります。電源コードは、途中で接続したり、延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。発熱・発火の原因になります。



● 指や異物を入れない

ストーブの内部に指や可燃物・針金などの異物を入れないでください。けがや火災の原因になります。



1.特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

注意(CAUTION)

●電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。ぬれた手で抜き差しはしないでください。感電の原因になります。



●長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときはまたは保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や予想しない事故の原因になります。



●電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこりおよび金属物を除去してください。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。



●灯油の保管

灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。
ガソリンなどと一緒に保管しないでください。誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。



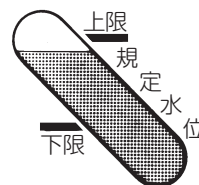
●不良灯油使用禁止

変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油(灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など)などの不良灯油を使用しないでください。異常燃焼のおそれがあります。



●シスターンの水位に注意 (UHタイプ)

循環液は少しずつ蒸発します。1ヶ月に1回程度は、シスターンタンクの水位が規定水位にあることを確認し、不足している場合は補充液を補給してください。上限水位以上は、入れないように注意してください。



●カーペットのはがれに注意 (UHタイプ)

カーペットがずれたり、めくれたまま使用しないでください。
床パネルに直接接触するとやけどのおそれがあります。



●循環液(循環水・不凍液)の保管に注意 (UHタイプ)

幼児の手の届かない所に保管してください。
万一、飲んだ場合には吐かせて、医師の診断を受けてください。



●初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。
しばらくの間、窓をあけて部屋の換気を行ってください。
また、小鳥や小動物などに影響する場合がございますので、この間は部屋に入れないでください。



●外出する時は消火

外出のときは、必ず運転を停止し消火してください。



●特殊用途には使用しない

食品・精密機器・美術品の保存や、動植物の飼育・栽培などには使用しないでください。



●定期点検の実施

定期的(2年に1回程度)に点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。点検・整備はお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは修理資格者のいる店に依頼してください。



●ご自身での据付け・移設工事の厳禁

お客さまご自身による工事は危険です。据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。
(ストーブを移設させる場合も同じです。)



1.特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

お願い (NOTICE)

●機器を廃棄するときの注意

ストーブを廃棄処分するときは、必ず定油面器の灯油を抜き取ってください。
灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。
必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口
に依頼してください。

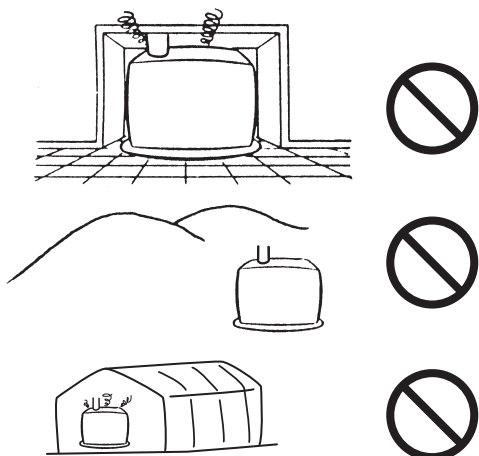
●灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買いあげになった販売店にご相談ください。

2.使用する場所

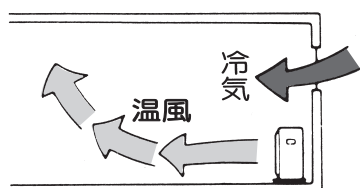
ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

安全に使用するために



- マンツルピースやペチカに据付けしないでください。煙突をペチカに接続しないでください。ストーブが故障したり、火災や予想しない事故の原因になります。
- 空気不足となり、異常燃焼の原因になるので標高が1000mを超える高地では使用しないでください。
- クリーニング店、美容院などの化学薬品を使用する場所では使用しないでください。化学薬品などの影響により、異常燃焼や故障の原因になります。
- 乾燥室、温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。
- 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取り入れ口のない場所または換気が行えない場所。
- 水平でない場所、不安定な場所では使用しないでください。
- 不安定な物をのせた棚などの下には使用しないでください。
- 可燃性ガスの発生する場合またはたまる場所には使用しないでください。
- 階段、避難口などの付近で避難に支障となる場所には使用しないでください。

効果的に使用するために



- 外気に接する窓の下や壁面になどに置くと、冷気がストーブで暖められて対流しますので、効果的です。

出入口など人の通るところは、ぶつくと危険ですので避けてください。

- 部屋の保温を工夫し、部屋の温度の調節を心がけましょう。

ご注意 ストーブの前面に障害物を置かないでください。

- 障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、ストーブ本体の温度が上昇して危険です。

UHタイプ

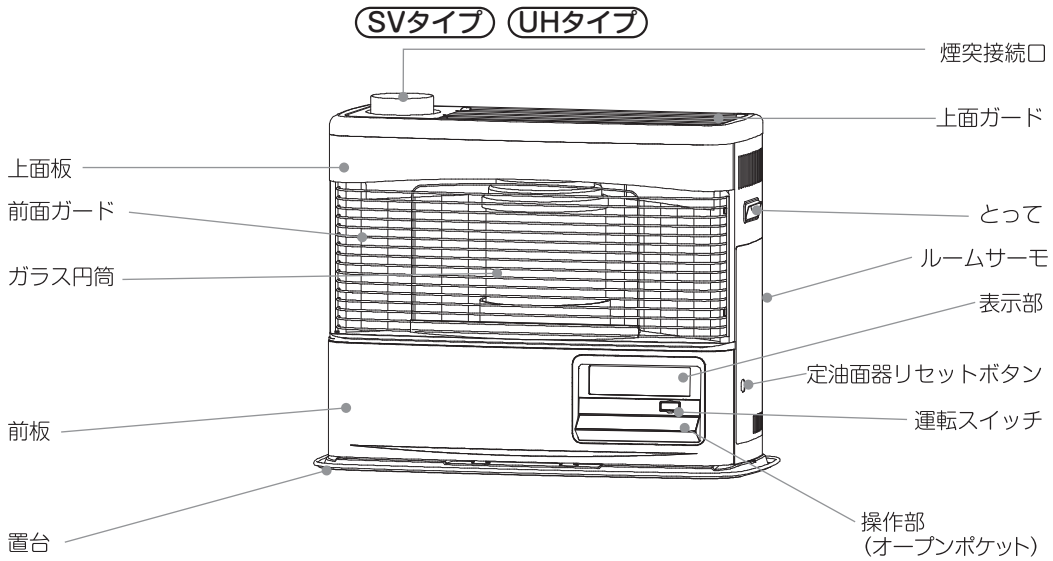
- ストーブ前面からふく射熱がでますので、床暖パネルとの距離を考慮してください。
- 温水配管の長さができるだけ短くなるような位置にストーブを配置してください。

3.各部の名称

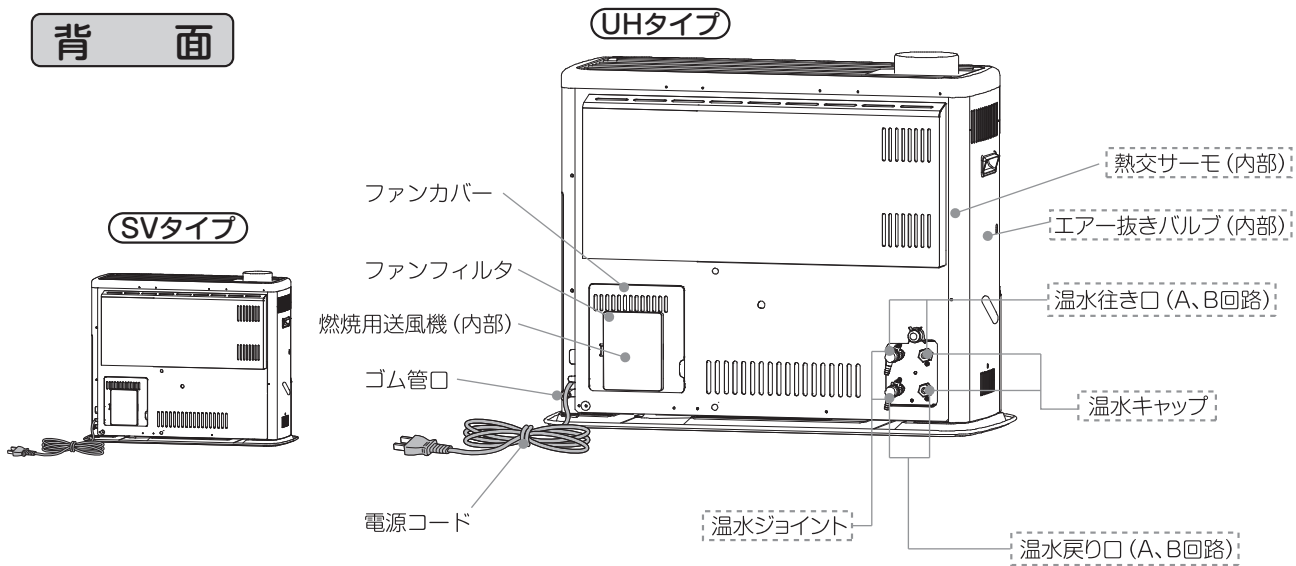
外観図

.....は(UHタイプ)のみ対象です。

正面

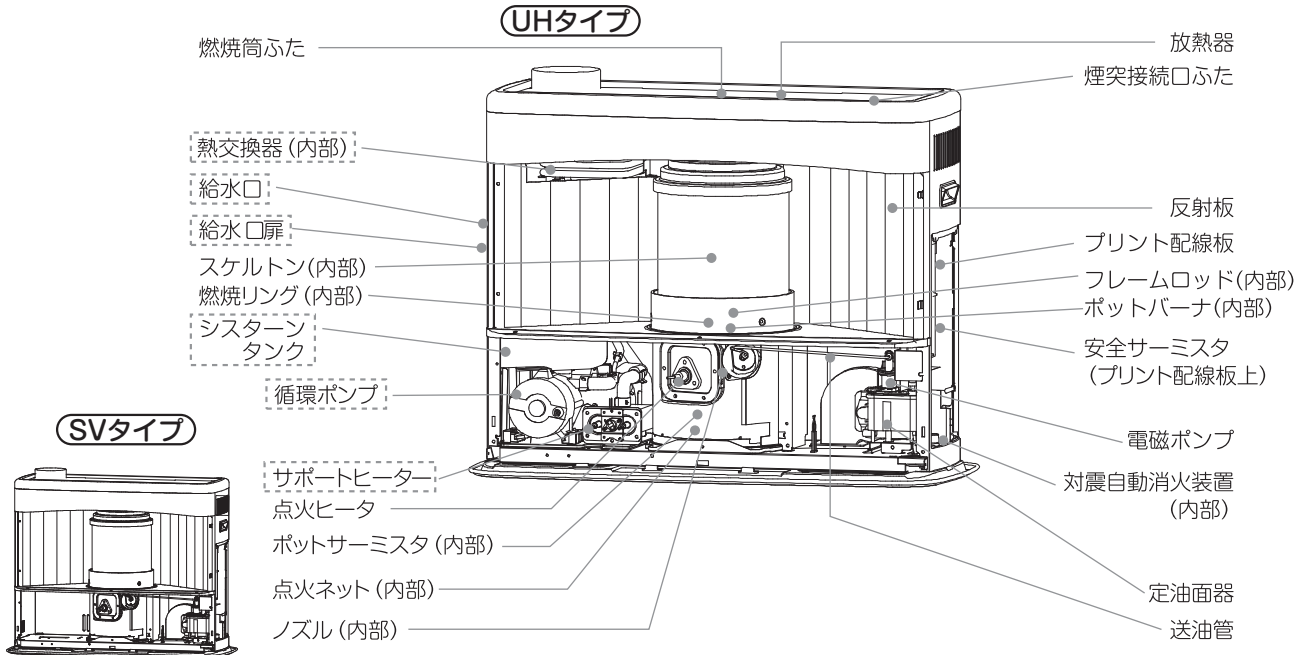


背面



構造図

.....は(UHタイプ)のみ対象です。



表示部の名称と働き

表示部

★イラストは説明のため全部表示した状態にしてあります。

(UHタイプ)



項目	デジタル表示部		
現在時刻表示 温度表示		●自動運転中 ・現在時刻表示 ・設定温度表示 (10 ~ 30°C) ・室内温度表示 ・「自動」表示 ・火力をグラフで表示	時計 / タイマー 合せボタンを 押すことに表示が 切り換わります。
		●手動 (固定火力) 運転中 ・現在時刻表示 ・室内温度表示 ・火力をグラフで表示	
現在時刻表示 再通電表示		●停止中 ・電源プラグをコンセントに差し込んだときや 停電後の再通電のときの表示	1
現在時刻合せ表示		・“現在時刻”点滅 左図は午前 8 時 30 分にセットの例 5 秒以上放置すると①に戻ります。	2
タイマー 1 合せ表示		・“タイマー 1”点滅 左図は午前 6 時 30 分にセットの例 5 秒以上放置すると①に戻ります。	3
タイマー 2 合せ表示		・“タイマー 2”点滅 左図は午前 8 時 30 分にセットの例 5 秒以上放置すると①に戻ります。	4
灯油使用量表示		・「灯油使用量」ボタンを押したときの表示 左図は今日 1 日 3 リットル使用の例	
記号表示 (自己診断モニタ)		・(例) E3 表示：対震自動消火装置の作動 ※再度、点火操作をしてください。 その他の自己診断モニタ表示については 20 ~ 22 ページを参照してください。	

エコサイン

エコサイン (火力)	時間		●「エコサイン」で灯油1リットル あたりの運転時間がわかります。 各火力での1リットルあたりの運転時間 (数値はめやすであり、実際の使用時間 とは異なる場合があります。) → 微少運転は、灯油1リットルで 約4.5時間運転できて経済的です。
	UHタイプ	SVタイプ	
最大	1.1	1.0	
	1.3	1.2	
	1.5	1.5	
	2.0	1.9	
微少	4.5	4.5	

(SVタイプ)



表示部の明るさ調節

●温度設定ボタン▲を押しながら▼を押すことにより、表示部の明るさを三段階に調節することができます。

運転停止中およびタイマー運転中は表示が暗くなります。

●運転停止中も表示を明るいままにできます。

・温度設定ボタン▲を押しながら時計 / タイマー合せボタンを押してください。

1分以上経過しても表示が暗くならないことを確認してください。

・もとに戻りたい場合は、同じように温度設定ボタン▲を押しながら時計 / タイマー合せボタンを押してください。

3.各部の名称

操作部の名称と働き

■オープンポケットの開閉

- オープンポケットを軽く押しこむと、ゆっくり開きます。操作後、軽く押しもどすとロックして止まります。

操作するとき以外は、閉じてご使用ください。

■操作音について

- 操作ボタンを押すとピッと音がします。
- 誤操作をするとピッピーと音がします。

■「音声お知らせ」の内容と消音方法

- 通常の運転操作（「点火」・「消火」・「タイマーセット」など）を行うとき、音声（“点火します”・“消火します”・“タイマーをセットしました”など）で操作状態をお知らせします。
- 温度設定ボタン▲を押しながらエコボタンを押すことにより、「音声お知らせ」の入/切ができます。
入：“音声ガイドを開始しました”と音声でお知らせします。
切：“音声ガイドを停止しました”と音声でお知らせします。
- 温度設定ボタン▼を押しながらエコボタンを押すことにより、「音声お知らせ」の音量を三段階に調節できます。音量の調節を行うと“音量を変更しました”と音声でお知らせします。

操作部

時計/タイマー合せボタン 15・16ページ

- ・現在時刻合せ、およびタイマー合せの設定切り換えをします。
- ・押すごとにデジタル表示が切り換わります。

時計/タイマー合せボタンを押す前の表示

```

    運転時：温度表示・時刻表示 → 現在時刻合せ → タイマー1合せ → タイマー2合せ
    停止時：時刻表示
  
```

- ・5秒以上操作が無い場合は時計/タイマー合せボタンを押す前の表示に戻ります。
- 操作音 切換：ピッ 戻る：ピピッ

エコボタン 14ページ

- ・エコ運転のセット・解除をするときに押します。

操作音 セット：ピッ
解除：ピピッ

※ 床暖切換スイッチ 10～12ページ

- ・「ストーブ床暖」運転と「ストーブ単独」運転を切り換えます。

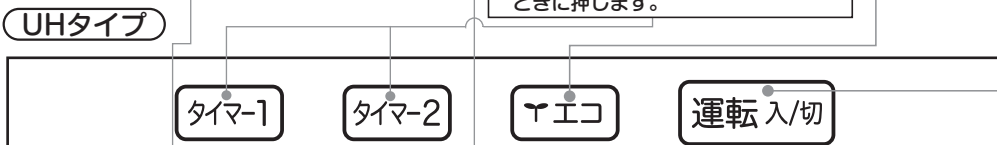
タイマー1ボタン
タイマー2ボタン 16・17ページ

- ・タイマー運転のセット・解除をするときに押します。

運転スイッチ 10～12ページ

- ・運転/停止をするときに押します。

操作音 運転：ピッ
停止：ピー



火力調節つまみ 13・14ページ

- ・火力調節つまみを「微小」～「大」の間で動かし火力をリニアに手動調節します。
- ・火力調節つまみを「自動」に合わせるとルームサーモによる自動運転（温度設定ボタンで室温を設定）ができます。

※ サポートヒーターボタン 11・12ページ

- ・「ストーブ床暖房運転」または「サポートヒーター運転」をするときに押します。

※ 床温調節ボタン 15ページ

- ・床暖パネルの温度調節をするときに押します。

灯油使用量ボタン 18ページ

- ・「今日」「昨日」の灯油使用量とセットした日からのストーブ使用日数および積算の灯油使用量を確認するときに押します。

灯油使用量ボタンを押す前の表示

```

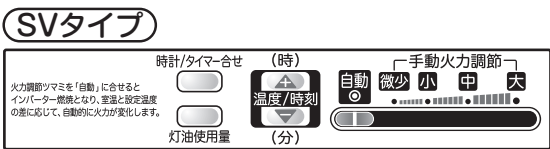
    運転時：温度表示
    時刻表示
    停止時：時刻表示
  
```

今日の灯油使用量
積算の灯油使用量 ← 昨日の灯油使用量

- ・10秒以上操作が無い場合は灯油使用量ボタンを押す前の表示に戻ります。

温度設定ボタン 13ページ

- ・火力調節つまみを「自動」にするとルームサーモによる室温設定（10～30℃）ができます。
- ▲ …設定温度を1℃上げる（操作音：ピッ）
- ▼ …設定温度を1℃下げる（操作音：プッ）



※ 床温設定ボタン 15ページ

- ・温水出口温度を27～70℃の範囲に設定します。
- ▲ …設定温度を6℃上げる（操作音：ピッ）
- ▼ …設定温度を6℃下げる（操作音：プッ）

時刻設定ボタン 15・16ページ

- ・現在時刻、タイマー時刻を合わせるときに押します。
- ▲ (時)…時合せ（操作音：ピッ）
- ▼ (分)…分合せ（操作音：プッ）

お願い ●はじめてお使いになる前に
輸送時の傷を防止するために、表示部と操作部の表面には保護フィルムが貼ってあります。ご使用前に取り除いてください。コーナー部分にセロハンテープを貼り付けて、一緒にはがすとより簡単に取り除けます。
(保護フィルムはストーブの設置工事の際には、はがしてある場合があります)

4.使用前の準備

燃 料

燃料は灯油（JIS 1号灯油）を必ず使用してください。

警告 ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

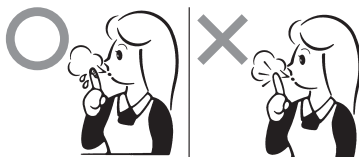
注意 不良灯油（変質灯油、不純灯油）は絶対に使用しないでください。
点火、消火しにくくなったり、燃焼が悪くなってすすが出たり、製品の寿命を縮めます。

注意 灯油は必ず火気・雨水・ごみ・高温および直射日光を避けた場所に保管してください。
ガソリンなどと一緒に保管しないでください。誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。



灯油とガソリンの見分けかた

指先に燃料をつけ、息をふきかけます。
(火の気のない所で行ってください。)



灯油は
ぬれたまま

ガソリンは
すぐ乾く

不良灯油（変質灯油・不純灯油）とは…

昨シーズンより持ち越しの灯油



日光にあたる所や温度の高い所に保管した灯油



容器のふたが開けてあったり、乳白色のポリ容器で保管した灯油



水・ごみや灯油以外の油がほんのわずかでも混入した灯油



- 極度に変質したものは、黄色味がかったり、すっぱいにおいがします。
- 必ず灯油用のポリタンクをお使いください。
- 灯油はシーズン中に使いきりましょう。

変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると、機器の故障の原因になります。

- 油の程度にもよりますが、燃焼不良をおこしたり、ストーブの損傷を早め、故障の原因になります。
- 水やごみが送油経路に流れこみ、油漏れや燃焼不良・着火不良の原因になります。

変質灯油や不純灯油を使用したときは…

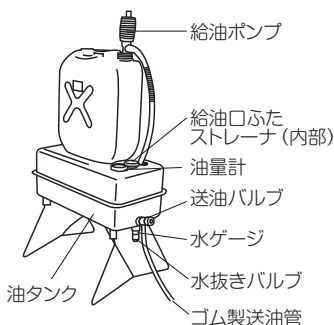
- お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

ご注意

- 変質灯油、不純灯油などの不良灯油が原因で修理をされたときは、保証期間中でも保証の対象外となります。
- 変質灯油の処理でお困りの場合は、灯油をお買いあげの販売店にご相談ください。

給 油

給油の際の手順と注意



注意 火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。

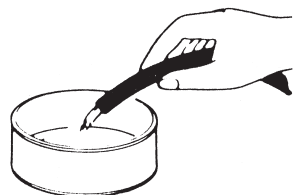
- 送油バルブを閉じて給油口ふたを外し市販の給油ポンプで給油してください。油量計の針が「満」をさしたら給油をやめてください。給油後は、給油口にあるストレーナを取り出して、水やごみがたまっていたら掃除してください。
- ストレーナを取り付けて、給油口ふたを必ずもとどおり締めてください。
- 給油の際は、水・ごみなどを入れないように注意してください。水・ごみなどは燃焼不良や、ストーブの寿命低下などの原因になります。
- 給油口ふたは、確実に締めてください。
- こぼれた灯油はよくふきとってください。

燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないように注意してください。

油タンクを空にすると、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。

このような場合は次の順序で空気抜きをしてください。

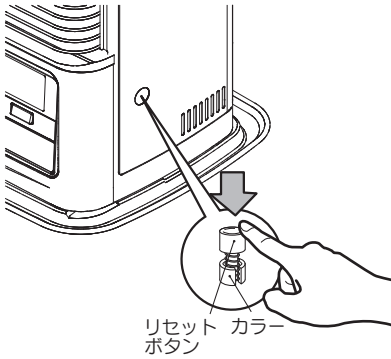


1. 送油バルブを閉じて油タンクに給油します。
2. ストーブのゴム管口からゴム製送油管を外します。
3. 送油バルブを開け、ゴム製送油管から灯油が連続して流れ出ることを確かめてからゴム製送油管をもとどおりにストーブに取り付けます。
(灯油がこぼれないように容器を用意してください。)

4. 使用前の準備

運転開始前の準備と確認

■安全装置のセット、取扱い上の注意



定油面器のセット

初めて使用するときやシーズン初めには、右側面の穴から見える定油面器リセットボタン（赤色）を軽く押し下げてください。

ご注意

- リセットボタンは据付け時やシーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。万一、点火操作後灯油が出ずに自己診断モニター[E1]または[E2]が表示されるような場合はリセットボタンを押してください。（安全弁が外れ、灯油がスムーズに流れます。）
- リセットボタンは乱暴に扱ったり、5秒以上押したままの状態や何回も押さないでください。定油面器から灯油があふれたりすることがあります。

■送油経路の油漏れの確認

注意 油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどから灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

- 油漏れのあるときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じてからお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

■電気配線の確認

注意 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。

- 電源コードが煙突などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

ご注意 電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために…

- 電源は必ず適正配線された単相100Vコンセントを使用してください。
- 電源コードは、途中で接続したり延長コードを使用しないでください。
- 他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。

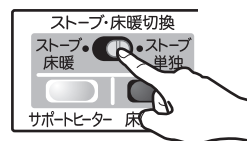
■点火の要領と注意 (UHタイプ)

床暖切替スイッチのセット

ストーブ単独で運転する場合は「ストーブ単独」に、ストーブ床暖房運転を行う場合は「ストーブ床暖」に、床暖切替スイッチをセットしてください。床暖切替スイッチのセットは運転開始前に行ってください。

- ストーブ床暖房で運転する場合

- ストーブ単独で運転する場合



■運転中に床暖切替スイッチを操作した場合の注意

- **ストーブ単独→ストーブ床暖** …自動的に一旦消火して、約10分後に再点火し、ストーブ床暖房運転を開始します。そのとき、「ジュウ」という循環液の蒸発音が発生することがありますが異常ではありません。
- **ストーブ床暖→ストーブ単独** …運転はそのまま続きます。しばらくして「ジュウ」という循環液の蒸発音がしますが異常ではありません。

循環液の水位確認



- ストーブ左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水位（上限水位と下限水位の間）まで循環液（コロナ床暖房用循環液）が入っていることを確認してください。循環液が入っている場合は黄色になります。水位が下限以下の場合は、「日常の点検・手入れ」（24ページ）を参照し床暖房専用補充液を入れてください。循環液は上限以上入れないように注意してください。循環液を上限以上入れると使用中に循環液があふれることがあります。

温水配管の水漏れの確認

- ストーブ内部や温水配管接合部から水漏れがないか確認してください。
- 床暖パネルの温水配管の途中にバルブを取り付けた場合は、必ずバルブが開いていることを確認してください。

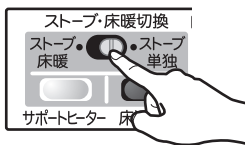
5.使用方法（使い方）

運転開始（点火）

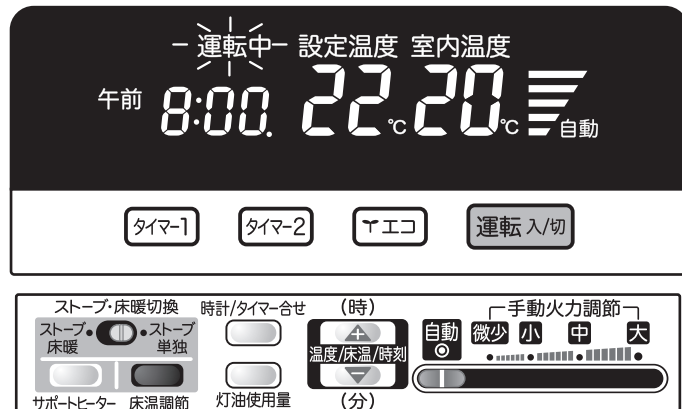
点火順序

SVタイプ UHタイプ

ストーブ単独運転



1. 床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に合わせてください。（UHタイプのみ対象です。）
2. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
“点火します”の音声と同時に運転ボタンが点灯し、「運転中」表示が点滅します。約3～4分間の予備燃焼が終わると「運転中」表示が点灯に変わり本燃焼になります。



※表示は「自動運転」の場合です。

※予備燃焼後約2.5分間、火力は中火力になります。
この間は火力の変更はできません。

●予備燃焼時に黄色い炎（赤火）が混じる場合がありますが、異常ではありません。

●比較的暖かい時期など、設定室温より室温が上がりすぎるときにはエコ運転をご使用ください。
消火と燃焼をくりかえし、室温を調節します。

●ガラス円筒がすすけた場合は「ガラス円筒内部の掃除」（24ページ）を参照し、すすを除去してください。

●本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが異常ではありません。

5.使用方法(使い方)

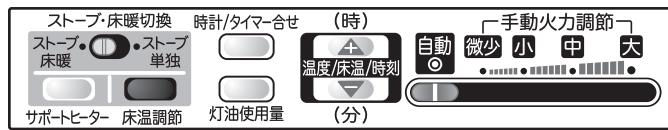
運転開始(点火)

UHタイプ

ストーブ床暖房運転



1. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。
2. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
“点火します”の音声と同時に運転ボタンが点灯し、「運転中」表示が点滅します。約3～4分間の予備燃焼が終わると「運転中」表示が点灯に変わり本燃焼になります。



※表示は「自動運転」の場合です。

※予備燃焼後約2.5分間、火力は中火力になります。
この間は火力の変更はできません。

- 予備燃焼時に黄色い炎(赤火)が混じる場合がありますが、異常ではありません。
- 比較的暖かい時期など、設定室温より室温が上がりすぎるときにはエコ運転をご使用ください。
消火と燃焼をくりかえし、室温を調節します。
- ガラス円筒がすすけた場合は「ガラス円筒内部の掃除」(24ページ)を参照し、すすを除去してください。
- 本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが異常ではありません。

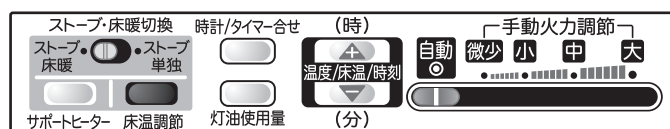
UHタイプ

サポートヒーター運転

- サポートヒーターは電気ヒーターです。春先や秋口などの足元が少し寒く感じる時にサポートヒーター運転のみで快適な床暖房運転ができます。



1. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。
2. サポートヒーターボタンを押してください。
「サポートヒーター」と「設定床温」表示が点灯し、運転を開始します。



※サポートヒーターの通電を停止すると表示が消灯します。

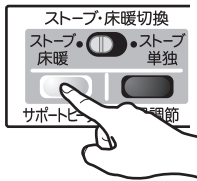
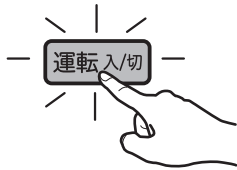
- サポートヒーター運転の消し忘れを防止するため、操作後8時間で自動停止します。

5.使用方法(使い方)

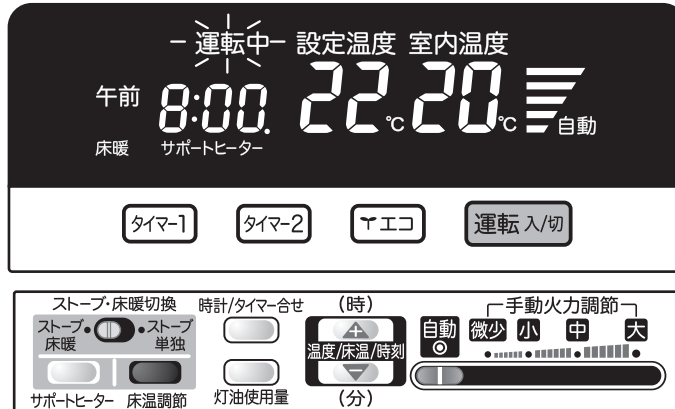
UHタイプ

ストーブ床暖房・サポートヒーター併用運転

●ストーブ床暖房プラスサポートヒーターで床暖房能力をアップできます。



1. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。
2. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
“点火します”の音声と同時に運転ボタンが点灯し、「運転中」表示が点滅します。
3. サポートヒーターボタンを押してください。
「サポートヒーター」表示が点灯し、運転を開始します。
約3～4分間の予備燃焼が終わると「運転中」表示が点灯に変わり本燃焼になります。



※表示は「自動運転」の場合です。

※予備燃焼後約2.5分間、火力は中火力になります。

この間は火力の変更はできません。

●予備燃焼時に黄色い炎(赤火)が混じる場合がありますが、異常ではありません。

●比較的暖かい時期など、設定室温より室温が上がりすぎるときにはエコ運転をご使用ください。

消火と燃焼をくりかえし、室温を調節します。

●ガラス円筒がすすけた場合は「ガラス円筒内部の掃除」(24ページ)を参照し、すすを除去してください。

●本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが異常ではありません。

5.使用方法(使い方)

運転停止(消火)

消火順序



UHタイプ

サポートヒーター運転



UHタイプ

ストーブ床暖房・サポートヒーター併用運転



運転スイッチを押して「切」にしてください。

- “消火します”の音声と同時に運転ボタンと時刻表示以外のすべての表示が消灯し、消火します。
- 消火後は本体内部が冷却するまで送風を継続し、燃焼室が冷却すると、約10分後に燃焼用送風機、※循環ポンプ(ストーブ床暖房運転のみ)が停止します。
※印は(UHタイプ)のみ対象です。

再度、サポートヒーターボタン押してください。

- 時刻表示以外のすべての表示が消灯し、サポートヒーター、循環ポンプが運転を停止します。

再度、運転スイッチを押して「切」にしてください。

- “消火します”の音声と同時に、運転ボタンと時刻表示以外のすべての表示が消灯し、消火します。
- 消火後は本体内部が冷却するまで送風を継続し、約10分後に燃焼用送風機、循環ポンプが停止します。

⚠注意 2日以上家をあけるなど長時間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。

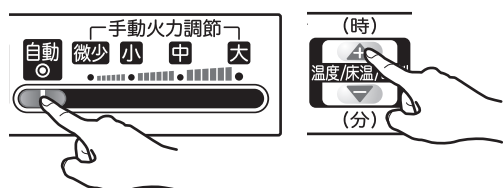
- 外出のときは、必ず運転を停止(消火)してください。
- 運転中は電源プラグを抜いての消火はしないでください。ガラス円筒にすすがついたり、ストーブが過熱して故障の原因になります。
- 運転停止後、燃焼室が冷却するまでは電源プラグを抜かないでください。ガラス円筒にすすがついたり、ストーブが過熱して故障の原因になります。
- 本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが異常ではありません。

消火後、再点火するときの注意

- 燃焼中に誤って電源プラグを抜いたり、運転スイッチを「切」にすると再点火安全装置の働きでストーブが冷却されるまでの約2分間は再点火できません。ただし瞬間的な消火操作(約1秒以内)の場合は、そのまま燃焼が継続されます。

室温の調節(自動運転)

ルームサーモにより、設定温度に応じて自動的に火力調節を行います。設定温度は10~30℃の間で設定できます。次のように設定してください。



火力調節つまみを「自動」に合わせてください。「自動」表示が点灯します。

- 温度設定ボタン「+」を押すと1℃上がります。(上限30℃)
 - 温度設定ボタン「-」を押すと1℃下がります。(下限10℃)
- 設定温度を変更すると“□□℃に変更しました”と音声でお知らせします。

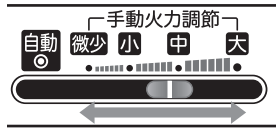
⚠注意 ●室温調節はストーブの位置や部屋の大きさなどで、必ずしも表示部の設定温度とは一致しない場合があります。



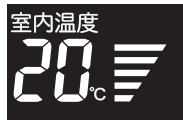
- 自動運転時に微少火力でも室温が設定室温より上昇する場合は、設定室温より3℃上昇すると自動的に消火するエコ運転をおすすめします。(14ページ エコ運転の項参照)
- 室温が設定室温より3℃上昇すると消火し、お部屋のムダな暖めすぎをおさえます。

火力調節(手動調節—手動運転)

室温設定による自動運転の他に、火力調節つまみによる手動火力調節が可能です。次のようにしてください



- 火力調節つまみを「微少」～「大」の間のご希望の位置に合わせてください。火力調節つまみの設定火力で燃焼します。



〈床暖房運転時の手動火力調節について〉(UHタイプ)

- 本ストーブの床暖房能力は使用火力によって変化します。パネル敷置数が多い場合火力調節が低いと床暖パネルが温まらないことがあります。お使いのパネル敷置数をご確認の上、下記の表をめやすに火力の調節をしてご使用ください。

畳数	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
火力	微少	小火力		中火力			大火力			

炎の状態

ストーブの据付けや給排気筒の設置条件で、炎は多少変化します。

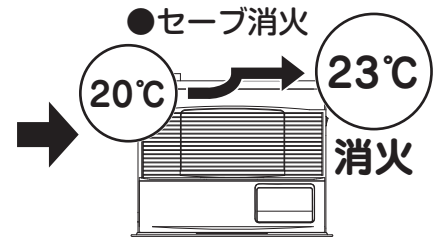
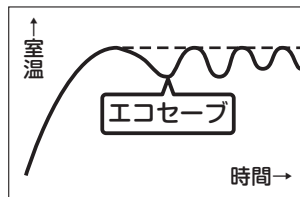
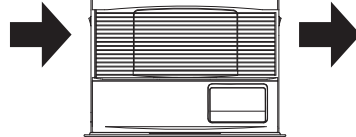
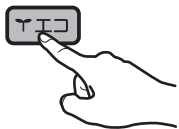
- 燃焼中の炎に黄色い炎(赤火)が混じったり、かたよったり、上下変動することがありますが異常ではありません。
- 細かい(霧状の)水滴やホコリを吸気した場合は全体的に淡いオレンジ色になることがありますが異常ではありません。

エコ運転

自動運転時にエコボタンを押すとご希望の設定室温に切り換わり、ムダな暖めすぎをおさえ、経済的で快適な室温を保ちます。また、自動運転時は最大火力を70～90%、手動運転時は最大火力を80～90%におさえてお部屋を暖めすぎないように運転します。

自動運転時(設定室温20°Cの場合)

●エコ運転



エコボタンを押すと設定温度が20°Cに切り換わります。

最大火力を70～90%におさえて室内を暖房します。

ムダな暖めすぎをおさえ、快適な室温を保ちます。

室温が設定温度より約3°C上昇すると消火し、設定温度以下になると再点火します。

※設定温度の初期設定は20°Cです。設定温度は、温度設定ボタンで10～30°Cに変更できます。

- 室温が20°C未満で30分以上運転した場合は、最大火力を90%におさえて運転します。
- 室温が20°C以上の場合、最大火力を80%におさえて運転します。
- 室温が24°C以上で30分以上運転した場合、(設定温度を22°C以上に設定)最大火力を70%におさえて運転します。

- エコ運転でセーブ消火がくりかえされるとガラス円筒にすすがつくことがあります。ときどきエコ運転を解除し、火力を中～大で1～2時間燃焼させてください。

手動運転時

※火力調節つまみが「中」～「大」のときエコ運転をします。

- 室温が20°C以上の場合、最大火力を90%におさえて運転します。
- 室温が24°C以上で30分以上運転した場合、最大火力を80%におさえて運転します。

エコ運転方法



エコボタンを押してください。

- “エコ運転をセットしました”の音声と同時にエコボタンと「エコ」表示が点灯し、エコ運転に入ります。
- 室温が設定温度より約3°C上昇すると消火(セーブ消火)します。

エコ運転の解除



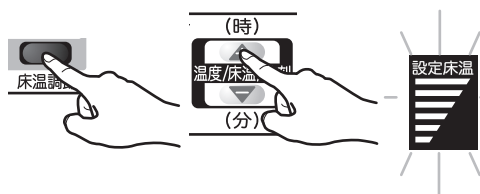
再度、エコボタンを押してください。

- “エコ運転を解除しました”の音声と同時にエコボタンと「エコ」表示が消灯し、エコ運転を解除します。
- エコ運転を解除するとエコ運転前の設定温度に戻ります。

5.使用方法(使い方)

床暖パネルの温度調節 UHタイプ

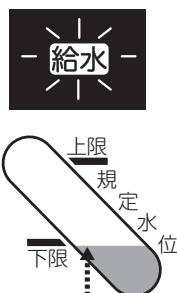
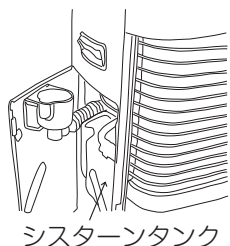
床暖房運転の場合は、循環液が設定温度になるように温度調節します。また、設定床温は6段階にグラフ表示します。グラフ表示3つ目は、床暖パネルのカーペット表面をほぼ33℃(床暖パネル3畳の場合)に保つ循環液温度を示します。



- 床温調節ボタンを押してから床温設定ボタン▲▼を押すと次のように床温調節でき設定床温表示グラフも移動点灯します。
 - ・ ▲ …… 1回押すと設定温度を6℃上げ、グラフ表示が上に移動。
 - ・ ▼ …… 1回押すと設定温度を6℃下げ、グラフ表示が下に移動。
- 設定床温を変更すると“床暖の温度を変更しました”と音声でお知らせします。
- 床温パネルの温度調節は「設定床温」表示が点滅・点灯中に設定できます。

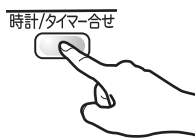
● 設定床温は、床暖パネルの温度設定です。お部屋の温度設定は設定温度または、火力調節つまみで行ってください。カーペットの表面が熱くなりすぎないように設定床温には、十分注意してください。

給水お知らせ UHタイプ



- ストープ床暖房運転中またはサポートヒーター運転中にシステムタンク内の循環液が少なくなると「給水」表示が点灯し、お知らせ音(ピピピッ)の後“循環液が少なくなりました”と音声でお知らせします。
- 「給水」表示が点灯したら循環液を補給する場合は「日常の点検・手入れ」(24ページ)を参照し、システムタンクに床暖専用補充液を補給してください。「給水」表示は床暖房専用補充液を規定水位まで補給を行うと消灯します。

現在時刻の合わせ方



- 現在時刻は工場出荷時に合わせてありますが、多少ずれることがあります。時刻がずれている時は、次の手順で合わせてください。
 1. 時計/タイマー合せボタンを押して「現在時刻」表示にします。
 2. 時刻設定ボタン▲(時) ▼(分)を押して現在時刻を合わせます。1回押すと▲(時)は1時間、▼(分)は1分進みます。ボタンを押し続けると、表示は連続して変わります。(時刻設定は「現在時刻」が点滅中に設定できます。5秒間操作がない時、デジタル表示は自動的に時計/タイマー合せボタンを押す前の表示に戻ります。)
「現在時刻」表示が消灯したときに時計動作が開始します。

例：午前6時15分に合わせる場合

- ① ▲(時) ボタンを押して“午前6:00”にします。

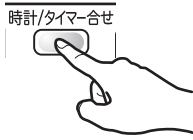


- ② ▼(分) ボタンを押して“午前6:15”にします。



タイマーの使用法

■タイマーセット時刻の合わせ方



●タイマー運転は2コースセットできます。

1. 時計/タイマー合せボタンを2回押して「タイマー1」表示にします。(タイマー運転2の場合は時計/タイマー合せボタンを3回押して「タイマー2」の表示にする。)

●タイマーセット時刻未セットの場合、初期表示は
タイマー1：午前5時、タイマー2：午前7時 となります。

2. 時刻設定ボタン▲(時)▼(分)を押してタイマーセット時刻を合わせます。1回押すと▲(時)は1時間、▼(分)は5分進みます。ボタンを押し続けると、表示は連続して変わります。

(タイマー時刻設定は「タイマー1」が点滅中に設定できます。5秒間操作がない時、デジタル表示は自動的に時計/タイマー合せボタンを押す前の表示に戻ります。)

例：午前6時30分に合わせる場合

- ① ▲(時) ボタンを押して“午前6：00”にします。

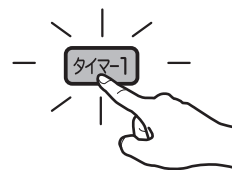


- ② ▼(分) ボタンを押して“午前6：30”にします。



■タイマー運転方法

(SVタイプ) (UHタイプ)



1. 運転スイッチを押して「入」にしてください。運転スイッチが点灯します。(運転中の場合は運転スイッチを押す必要はありません。)
2. ご希望の設定温度または、火力に合わせてください。
3. ※ストーブ単独運転をする場合は床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に、ストーブ床暖房運転をする場合は床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」にしてください。
4. ※ストーブ床暖房運転をする場合は床温調節ボタンを押してから床温設定ボタンを押してご希望の設定床温に合わせてください。
※印は(UHタイプ)のみ対象です。
5. タイマー1ボタンを押してください。(タイマー運転2の場合はタイマー2ボタンを押してください。)
“タイマーをセットしました”の音声と同時に時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー1ボタンと「タイマー1」表示が点灯し、タイマー運転に入ります。(タイマー運転2の場合はタイマー2ボタンと「タイマー2」表示が点灯します。)

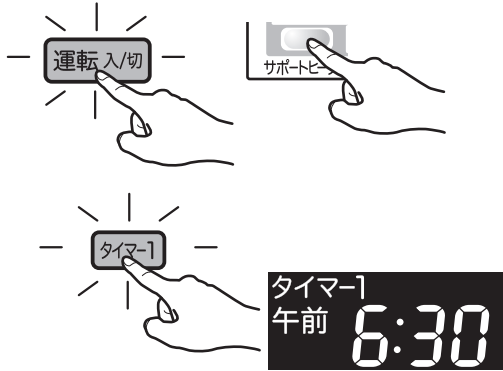
●運転中の場合は、運転が停止します。

5.使用方法(使い方)

タイマーの使用方法

UHタイプ

ストーブ床暖房・サポートヒーター併用運転



1. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。
2. 運転スイッチとサポートヒーターボタンを押してください。
運転スイッチと「サポートヒーター」表示が点灯します。
(運転中の場合は運転スイッチを押す必要はありません。)
3. ご希望の設定温度または、火力に合わせてください。
4. 床温調節ボタンを押してから床温設定ボタンを押してご希望の設定床温に合わせてください。
5. タイマー1ボタンを押してください。
(タイマー運転2の場合はタイマー2ボタンを押してください。)
“タイマーをセットしました”の音声と同時に時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー1ボタンと「タイマー1」表示が点灯し、タイマー運転に入ります。
(タイマー運転2の場合はタイマー2ボタンと「タイマー2」表示が点灯します。)
●運転中の場合は、運転が停止します。

- タイマー運転1とタイマー運転2は同時セットできません。
- 外出時など、留守中に燃焼を開始するようなタイマーセットは、絶対にしないでください。
- タイマー運転は、運転スイッチが「入」になっていないと運転が開始されません。
- 運転スイッチが「切」のとき、タイマー1ボタン(タイマー2ボタン)を押すとタイマーセット時刻が表示されます。
- タイマー運転中にサポートヒーターボタンを押すとサポートヒーター運転になります。
- タイマー運転中はタイマーセット時刻表示の明るさ(輝度)が落ちます。
- タイマーセット時刻になるまでは、時刻表示にタイマーセット時刻が表示され続けます。
- タイマー運転設定後に停電があった場合や、対震自動消火装置が作動した時は、タイマー運転が解除され、点火しません。

■タイマー運転の解除

SVタイプ UHタイプ



1. 再度、タイマー1ボタンを押してください。
(タイマー運転2の場合はタイマー2ボタンを押してください。)
“タイマーを解除しました”の音声と同時にタイマー1ボタンと「タイマー1」表示が消灯し、表示部に現在時刻が表示され(時計動作ドット点滅)、タイマー運転が解除されます。
(タイマー運転2の場合はタイマー2ボタンと「タイマー2」表示が消灯します。)
2. ストーブの運転を停止する場合は、再度運転スイッチを押して「切」にしてください。

UHタイプ

ストーブ床暖房・サポートヒーター併用運転



1. 再度、タイマー1ボタンを押してください。
(タイマー運転2の場合はタイマー2ボタンを押してください。)
“タイマーを解除しました”の音声と同時にタイマー1ボタンと「タイマー1」表示が消灯し、表示部に現在時刻が表示され(時計動作ドット点滅)、タイマー運転が解除されます。
(タイマー運転2の場合はタイマー2ボタンと「タイマー2」表示が消灯します。)
2. サポートヒーターとストーブの運転を停止する場合は、再度運転スイッチを押して「切」にしてください。

灯油使用量

「今日」「昨日」の灯油使用量とリセットした日からのストーブ使用日数および積算の灯油使用量を表示します。灯油使用量ボタンを押すと表示部が灯油使用量の表示に切り換わり、ボタンを押すごとに表示部が次のように切り換わります。

●今日の灯油使用量



【例】今日1日 灯油3リットル使用

今日の現在までの灯油使用量を表示します。
(午前0時から現在までの灯油使用量を表示します。)

●昨日の灯油使用量



【例】昨日1日 灯油5リットル使用

昨日1日の灯油使用量を表示します。
(午前0時から24時間の灯油使用量を表示します。)

●積算の灯油使用量



【例】125日使用時 灯油319リットル使用

ストーブの使用日数と積算の灯油使用量を表示します。
(ストーブの使用日数は午前0時に更新します。)

●灯油使用量は1リットル単位で表示します。

※灯油使用量は小数点以下を四捨五入した数値を表示します。

●ご注意

- 現在時刻が合っていない場合、灯油使用量や使用日数が正しい値を表示しません。
「現在時刻の合わせ方」(15ページ)を参照し時刻合わせを行ってください。
- 電源プラグをコンセントから抜いたり、停電があった場合は、今日の灯油使用量が「0」になります。
ただし、昨日の灯油使用量とリセットした日からのストーブ使用日数および積算の灯油使用量は記憶されます。
- 表示する灯油使用量はめやすです。使用状況によって実際の灯油使用量と異なる場合があります。

灯油使用量の表示方法

灯油使用量ボタンを押すごとに表示が切り換わります。



今日の灯油使用量を確認する場合

- 灯油使用量ボタンを押してください。(1回)
- “今日の使用量です”の音声と同時に今日の灯油使用量を表示します。

昨日の灯油使用量を確認する場合

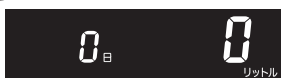
- 灯油使用量ボタンを押してください。(2回)
- “昨日の使用量です”の音声と同時に昨日の灯油使用量を表示します。

積算の灯油使用量を確認する場合

- 灯油使用量ボタンを押してください。(3回)
- “積算の使用量です”の音声と同時にリセットした日からのストーブ使用日数と積算の灯油使用量を表示します。

- 灯油使用量表示中に10秒間操作がない場合、通常表示に戻ります。
- 灯油使用量表示中はタイマー運転をセットできません。
- ストーブ使用日数の上限は「1999」日です。それ以上は使用日数が増えません。
必要に応じて積算の灯油使用量をリセットしてください。
- 積算の灯油使用量の上限は「9999」リットルです。それ以上は使用量が積算されません。必要に応じて積算の灯油使用量をリセットしてください。

積算の灯油使用量のリセット方法



- 積算の灯油使用量を表示している状態でタイマー1ボタンを3秒以上押してください。
・“積算をリセットしました”の音声と同時にリセットした日からのストーブ使用日数と積算の灯油使用量をリセットし表示が「0」になります。

5.使用方法(使い方)

使用上の注意

本書の「特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)」の他に、次の項目についても注意してください。



警告

●**煙突閉そく危険**

煙突がつまったり、ふさがれたままで使用しないでください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



警告

●**低温やけどに注意 (UHタイプ)**

長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。
比較的低い温度(40~60℃)でも低温やけどや脱水症状の原因となります。



注意

●**高温部接触禁止**

燃焼中や消火直後は、高温部(枠上部、前面ガードなど)、煙突に手など
ふれないでください。やけどのおそれがあります。

●**小さいお子様のいるご家庭では、特に注意してください。**



注意

●**長期間使用しないときは電源プラグを抜く**

長期間使用しないときはまたは保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。



ストーブ周囲の注意

●ストーブ下面やふく射熱が強いストーブ前面付近などには熱に弱いものを置いたり、敷いたりしないでください。
変色や変形したりすることがあります。

上面ガード、前面ガードを外したまま運転しない

●上面ガードを取り外したり、前面ガードを開いたまま使用しないでください。誤って放熱器やガラス円筒などの
高温部にふれますとやけどをします。
また上面ガードをやむをえず取り外した場合は、必ずもとの状態に取り付けておいてください。

ガラス円筒には水をかけない

●ガラス円筒には水をかけたり、衝撃をあたえたりしないでください。ガラスが割れ危険です。

雷発生時は電源プラグをコンセントから抜く

●雷が発生したとき、雷(誘導雷)により一時的な過電圧がかかっても、過電圧防止装置が機器を保護するしくみ
になっていますが、大きな雷(直撃雷など)の場合は、電子部品を損傷するおそれがありますので、電源プラグ
をコンセントから抜いてください。

床暖房の床温調節 (UHタイプ)

●設定床温は、床暖パネルの温度設定です。お部屋の温度設定は設定温度または火力調節つまみで行ってください。
カーペットの表面が熱くなりすぎないように設定床温には十分注意してください。

循環液の凍結予防(循環液の注入) (UHタイプ)

腐食予防および凍結予防のために必ず循環液を入れてください。

●腐食予防および凍結予防のために循環液は必ずコロナ床暖房用循環液(別売品)をご使用ください。他の不凍液
を使用したり混合したりすると製品の寿命が短くなります。

●循環液は3年をめやすに入れかえてください。(開封した循環液も含む)

自己診断モニタについて

故障・異常が発生するとその状態が表示部に記号表示（自己診断モニタ）されます。

「故障・異常の見分け方と処置方法」（27～28ページ）をご覧ください。記号表示に合った必要な処置をしてください。

（自己診断モニタ）

表示	原因	処置方法	表示	原因	処置方法	
E1	途中消火	①	P1	ポット予熱不足	②	
E2	不着火		P2	ポット温度低下		
E3	対震作動		P3	ポット異常過熱		
E6	ルームサーモ断線		P4	不消火 (消火時間が長い)		
E7	停電		F1※	熱交サーモ作動	①	
E8	疑似火炎		F2※	湯温サーミスタ断線		
E9	燃焼用送風機異常検出		F3※	湯温サーミスタ短絡		
EC	ルームサーモ短絡					
EE	停止時ポット異常過熱					
EQ	基板温度異常					

※印は（UHタイプ）のみ対象です。

■解除方法

- ①運転スイッチを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
- ②お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。

表示	表示理由・処置方法
BB	点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）が作動しました。 下記の「■BB表示 点検時期お知らせ機能について」を参照してください。点検（有料）をおすすめします。

お願い

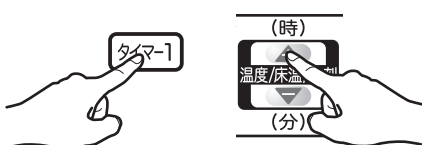
- お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて連絡していただく際は、表示している自己診断モニタもお知らせください。

■BB表示 点検時期お知らせ機能について

- 本製品には点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）が搭載されています。
ストーブの使用時間が設計上の標準使用期間8年相当（20,000時間）になったら、表示部にBBを表示して点検時期をお知らせします。
- 経年劣化による重大事故を防止するために、あんしん点検（有料）をおすすめします。
- 故障ではありませんのでご使用できます。
- 弊社 お客様ご相談窓口：コロナサービスセンターに連絡してください。
点検のご案内をさせていただきます。（受付時間：365日24時間受付）
TEL：フリーダイヤル 0120-919-302
携帯電話 PHS：ナビダイヤル 0570-550-992（ナビダイヤルの通話料はお客様負担となります）

ご注意

- 使用状況によっては点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）による点検時期お知らせ表示が、設計上の使用期間8年より早く表示することがあります。
- 点検後は使用時間が3年相当（7,500時間）の使用期間ごとにBBを表示して、点検時期をお知らせします。
安全に製品を使用していただくため、BBを表示した場合は、あんしん点検に準じた点検（有料）を受けることをおすすめします。
- 点検を受けていただくまでの間、表示部のBBを表示しないようにできます。
弊社 お客様ご相談窓口にて連絡してから次のように操作してください。






1. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
●約3分ごとにBB表示が10秒間点滅します。
2. 温度設定ボタン「+」を押しながらタイマー1ボタンを5秒間押し続けてください。
●表示部がBBから--に切り換わり、点検時期お知らせ表示BBを表示しなくなります。

- 点検を受けずにご使用になった場合、上記操作後1年相当（2,500時間）になると再度BBを表示します。

6.安全装置

このストーブには次のような安全装置がついています。安全装置が作動して消火した場合は、ストーブと周囲の点検・処置を行ってください。すべての安全装置は、異常が取り除かれても再度点火操作をしなければ運転は停止したままです。また、すべての処置は必ず、ストーブが消火し本体温度が十分下がってから行ってください。

安全装置	原因・作動結果	処置方法
燃 焼 制 御 装 置 点 火 安 全 装 置 (フレイムロッド) E1表示・E2表示 (途中消火) (不着火)	<ul style="list-style-type: none"> 途中消火をしたとき 点火ミスをしたとき  <ul style="list-style-type: none"> 自己診断モニタ E1 表示または E2 表示 ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> 油タンクの送油バルブが閉じられていないか確認してください。 ゴム製送油管につぶれや空気だまりがないか確認してください。 定油面器の安全装置が作動していないか確認してください。 お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
対 震 自 動 消 火 装 置 (E3表示)	<ul style="list-style-type: none"> 強い地震(震度約5以上)や衝撃を受けたとき  <ul style="list-style-type: none"> 自己診断モニタ E3 表示 ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ストーブの周辺や煙突の接続部・煙突トップの外れ、油漏れなどの異常がないことを確認してから点火操作をしてください。(対震自動消火装置は自動的にセットされます。)
停 電 安 全 装 置 (E7表示)	<ul style="list-style-type: none"> 停電したとき 電源プラグが抜けたとき  <ul style="list-style-type: none"> 通电後自己診断モニタ E7 表示 ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> 通电後点火操作をしてください。 電源プラグを確認してください。

7.その他の装置

装置の名称	原因・作動結果	処置方法
燃烧用送風機異常 検出装置 (ER 表示)	<ul style="list-style-type: none"> ・回転数が異常に低下したとき  <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタ ER 表示 ・ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ・お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。
安全サーミスタ (73℃) (EO 表示)	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーブの上面及び側面が囲われているとき ・ストーブの前面に障害物などがあるとき  <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタ EO 表示 ・ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーブ周囲の障害物を取り除いてください。 ・お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。
※ 循環水過昇防止装置 (FI 表示)	<ul style="list-style-type: none"> ・循環液が減少したとき ・循環液が循環しないとき  <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタ FI 表示 ・ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ・循環液の量を確認する等により循環水過昇原因を取り除いてください。 ・お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。
再点火安全装置	<ul style="list-style-type: none"> ・消火直後、再点火操作したとき  <ul style="list-style-type: none"> ・約2分間の冷却後でないと点火動作に入らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーブが冷えてから運転を行ってください。
過電流防止装置 (表示部全消灯)	<ul style="list-style-type: none"> ・内部配線のショートにより過電流が流れたとき  <ul style="list-style-type: none"> ・電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ・お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。
※ サポートヒーター 過熱防止装置	<ul style="list-style-type: none"> ・循環液が減少したとき ・循環液が循環しないとき  <ul style="list-style-type: none"> ・サポートヒーターへの通電を停止 (温度が下がると自動的に通電を再開) 	<ul style="list-style-type: none"> ・運転をいったん停止して、日常の点検・手入れ (24ページ) をしてください。 ・お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。

※印は(UHタイプ)のみ対象です。

8. 日常の点検・手入れ

点検、手入れのときの注意

点検・手入れは消火後、ストーブが十分冷えてから必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。



- 故障・破損したら、使用しないでください。不完全な修理は危険です。
- 定期的(2年に1回程度)に点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物(使用ごと)



カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそばなどで使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。可燃物との離隔距離については標準据付け例(32ページ)を参照してください。

■ほこり(使用ごと)

- ストーブにほこりが付いた状態で運転をしないでください。
- ストーブ外観のほこりや汚れは乾いたやわらかい布などできれいにふきとってください。ベンジン、シンナーなど揮発性の物は使用しないでください。塗装がはがれたり、樹脂が変形します。

■油漏れ・油のたまり・油のにじみ(使用ごと)

- 置台・油タンクに油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか、点検してください。また、給油の際にこぼれた灯油はよくふきとってください。

お願い

- 油漏れがある場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。

■ゴム製送油管の点検・交換のめやす(シーズンの初め)



油タンクやゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。

ご注意

- ゴム製送油管は、屋外で使用しないでください。屋外での使用は禁止されています。
- ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがなくても3年に1度は新しいものに交換されることをお奨めします。交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。

■油タンク(シーズンの初め、適時)

- 油タンク内に水やごみがたまっていないか点検してください。油タンク内の水抜きおよび掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。

■煙突の接続部のゆるみおよびトップの周囲(シーズンの初め、適時)

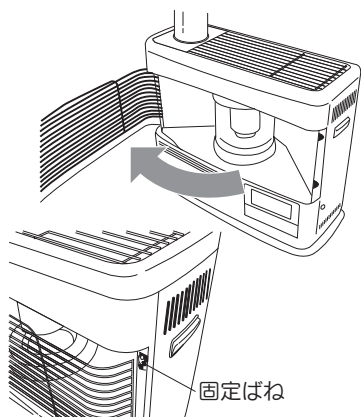
- 煙突の接続部、煙突トップの外れがないかを点検してください。煙突が腐食したり、穴があいたりしていると危険です。新しい物に交換してください。
- 煙突の近くには燃えやすいものを置かないでください。
- 煙突内に結露で生じた水滴が凍ってつまと危険です。点火時に煙突のつなぎ目やストーブより異常な煙が出たら消火して、煙突内を点検してください。
- 煙突内や煙突トップが雪や氷でふさがれていないか、落雪などで倒れていないか点検してください。
- 煙突が鳥の巣や紙などでふさがれていないか点検してください。

■定油面器のストレーナの掃除(1シーズン1~2回)

お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて依頼してください。

- 定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。水やごみがたまると灯油の流れを妨げて、十分な火力が出なくなる場合や灯油が漏れるおそれがあります。1シーズンに1~2回(シーズン初めなど)は、お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にて掃除・点検を依頼してください。

■ 反射板・ガラス円筒の掃除 (適時)



【ご注意】 掃除は、ストーブを消火させ十分冷却してから行ってください。熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。

● 反射板およびガラス円筒にほこりがたまると反射効率が悪くなるばかりでなく危険です。次のようにほこりを取り除いてください。

1. 前面ガードを右側の固定ばね(2個)から外し左側にまわしてください。
2. ガラス円筒を割らないように注意して掃除機などで反射板およびガラス円筒のほこりをきれいに掃除してください。
3. やわらかい布などで反射板およびガラス円筒をきれいにふいてください。
4. 掃除が終わったら、もとどおりに取り付けてください。

● 前面ガードは、確実に取り付けてください。

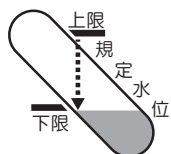
■ ガラス円筒内部の掃除 (適時) (お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。)

【ご注意】 掃除は、ストーブを消火させ十分冷却してから行ってください。熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。

● 長期間の使用や油だまりによる大燃焼の後にはガラス円筒がすすけることがあります。ガラス円筒がすすけて炎が見えにくくなったときは、しばらくの間(約30分間)火力を大きくすることにより、すすを除去することができます。それでもすすを除去できない場合は、お買いあげの販売店または、お近くのお客様ご相談窓口にご依頼してください。

● ガラス円筒には、水をかけたり、衝撃を与えないように注意してください。

■ 循環液の補給 (適時) (UHタイプ)



● シスターンタンク内の循環液は、少しずつ蒸発します。

● ストーブ床暖房運転中またはサポートヒーター運転中にシスターンタンク内の循環液が少なくなると「給水」表示が点灯しお知らせ音(ピピピッ)の後、「循環液が少なくなりました」と音声でお知らせします。(給水お知らせ)

● 「給水」表示が点灯した場合は、給水口扉を開き上限水位まで床暖房専用補充液を補給してください。

● 補給時は「満水お知らせ」の使用をおすすめします。上限水位まで補給すると満水お知らせ(お知らせ音 ピピピッ)が繰り返し鳴ります。「満水お知らせ」は「給水モード」で使用できます。

満水お知らせの使用法 (給水モードの入り方)

1. ストーブの運転を停止してください。



2. 床暖切替スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。



3. 床温調節ボタン5秒間押し続けてください。



● 表示部の「床暖」と「設定床温」表示が点滅します。

4. シスターンタンクの上限水位まで床暖房専用補充液を補給してください。

● 上限水位まで補給すると満水お知らせ音(お知らせ音 ピピピッ)が繰り返し鳴ります。



● 床暖房専用補充液の補給は必ず水位計を確認しながら行ってください。

5. 補給が完了したら床温調節ボタンを押してください。



● 満水お知らせが停止します。

【ご注意】 ● 床暖房専用補充液は「上限」以上補給しないでください。使用中に循環液があふれることがあります。

● コロナ純正床暖房用循環液は、凍結予防の他に床暖房に使用される機器(ストーブ・床暖パネル・配管部品など)の防錆効果を目的に作られた循環液です。循環液はすでに純水で適正な濃度に調合してありますので、試運転時にはこのままストーブに入れてください。

● 他社銘柄の防錆剤、不凍液(特に車両用など)を使用したり、混合したりすると防錆効果が発揮されず機器の耐久性がそなわれたり粘度があわずポンプの性能が十分発揮されず、沸騰してしまうことがあります。

● 循環液は、常温では引火しませんが、加熱されたストーブの上などにかかるとう着火することがありますので取り扱いには十分注意してください。

● 循環液は3年をめやすに入れかえてください。(開封した循環液も含む)

循環液の入れかえはお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

● 循環液の凍結温度は、 -20°C に調合されています。

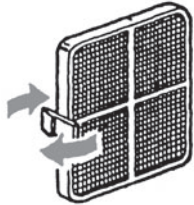
8. 日常の点検・手入れ

■ 温水配管の点検・交換のめやす (シーズンの初め、適時) (UHタイプ)

- ストーブ内部や温水配管接続部分から水漏れがないことを確認してください。
- パックチューブは経年変化しますので手で少し曲げ、ひび割れがないか点検し、ひび割れがあるときは交換してください。交換のめやすは3年に1度です。
交換はお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご依頼してください。

■ ファンフィルタの掃除 (適時)

- ファンフィルタがごみやほこりで目づまりすると燃焼不良の原因になります。
次のようにストーブ背面のファンフィルタの掃除を行ってください。



1. 左図の矢印のようにファンフィルタに力を加えながら引き出し、ストーブ背面から取り外してください。
2. ブラシなどでフィルタのほこりを取り除いてください。
3. 掃除が終わりましたら、もとどおりに取り付けてください。

■ 燃焼用送風機の掃除 (年1回以上)

お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

- 燃焼用送風機ファンにごみやほこりがたまると送風力が弱くなり燃焼が悪くなったり、音が大きくなってくることがあります。このような場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

■ 地震などの災害が発生したときの点検について

- 地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検を行ってください。
 - ・ 煙突周りの外れ、漏れの確認
 - ・ ストーブの損傷点検
 - ・ 灯油配管からの漏れの確認
- 点検で異常が見つかった場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

9. 定期点検

長期間ご使用になりますと、ストーブの点検が必要です。

2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに点検を実施してください。点検のご相談は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは修理資格者〔一般財団法人 日本石油燃焼機器保守協会 (TEL03-3499-2928) でおこなう技術管理講習会修了者 (石油機器技術管理士) など〕のいる店にご相談ください。

愛情点検



長年ご使用の密閉式石油ストーブの点検をぜひ！

こんな症状はありませんか

- 油漏れがする。
- 強い臭いがする。
- 運転中に異常な音がする。
- その他の異常や故障がある。

ご使用中止

故障や事故の防止のため必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。点検・修理についてのご費用など詳しいことはお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

10.設計上の標準使用期間

■本製品の設計上の標準使用期間について

- 本製品の設計上の標準使用期間は、8年と算定しています。
- 点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）により、表示部に **88** を表示します。
- 設計上の標準使用期間とは、標準的な使用条件のもとで適切な取り扱いで使用し、適切な維持管理が行われた場合に、安全上支障なく使用することができる標準的な期間として、製品ごとに設定されるものです。取扱説明書に記載の保証書による無償保証期間とは異なりますのでご注意ください。

〈設計上の標準使用期間の算定の根拠〉

本製品の設計上の標準使用期間は、JIS S2073の「4.標準使用条件」に準じて、以下の使用条件を想定し、当社において耐久試験などを行った結果算出された数値などにに基づき経年劣化により安全上支障が生ずるおそれが多く少ないことを確認した時期を設計上の標準使用期間としています。

- 家庭用半密閉式石油暖房機標準使用条件
年間使用時間 2,500時間、換気回数 1回/h、暖房設定温度 22℃

〈ご注意ください！〉

- 本製品を上記の標準的な使用条件を超える使用頻度や異なる使用環境などでお使いいただいた場合などにおいては、設計上の標準使用期間よりも短期間で製品が経年劣化し、安全上支障を生じるおそれが多くなることが予想されます。この場合は点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）により点検告知時期が設計上の標準使用期間とずれることがあります。
- 製品を目的以外の用途に使用したり、業務用に使用されるなど、上記の標準使用条件と異なる環境でご使用された場合も設計上の標準使用期間の到来前に経年劣化などによる重大事故発生のおそれが高まることが予想されますが、このようなご使用は、お控えいただくようお願い致します。

■本製品のあんしん点検に関するお問い合わせは、下記へ連絡ください

- 弊社 お客様ご相談窓口
コロナサービスセンター（受付時間：365日24時間受付）
TEL : フリーダイヤル 0120-919-302
携帯電話 PHS：ナビダイヤル 0570-550-992（ナビダイヤルの通話料はお客様負担となります）

〈点検料金について〉

- 点検料金はおお客様にご負担いただくこととなります。
また、点検の結果、整備が必要となった場合は、別途整備費用が発生いたします。

〈補修用性能部品について〉

- 石油ストーブの補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の保有期間は製造打ち切り後7年です。

■日常の点検・手入れ

- 製品を安全にご利用いただくためには、お客様においても日常的に清掃や安全点検を行っていただくようお願いいたします。詳しくは本書の「日常の点検・手入れ（23～25ページ）」の項をご覧ください。
- 定期的な点検（任意）を受けられることをおすすめします。
詳しくは本書の「定期点検（25ページ）」の項をご覧ください。

11.故障・異常の見分け方と処置方法

■次のような現象は故障ではありません。

●修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

現 象		説 明
点火時・消火時	初めて使用するときやシーズンの初めに煙やにおいがでる。	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。しばらく窓をあけて換気をしてください。
	すぐに点火しない。	予熱点火方式のため予熱時間が2分程度必要です。(予熱時間は室温により多少変化します。)
	燃焼開始時、火力調節時および消火時に「ピチピチ」や「カンカン」という音がする。	本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
	点火時にボンと音がする。	点火するときに発生する着火音で、異常ではありません。
	燃焼開始時に黄色い炎（赤火）が混じる。	異常ではありません。

■使用中に異常があったら次表により原因を調べて処置をしてください。

●原因のわからないときや処置のむずかしいときはお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

※印部の現象・原因は（UHタイプ）のみ対象です。

原 因	現 象									
	E 1 (途中消火)	E 2 (不着火)	E 3 (対震作動)	E 7 (停電)	E 8 (疑似火炎)	F 1 (熱交サーモ) ※	炎が大きくならない	黒煙を出して燃える	ガラス田筒がすすける	
電源プラグをコンセントに差し込んでいない										
強い地震があった。または、ストーブに衝撃を与えた			●							
送油バルブが閉まっている	●	●								
定油面器の安全装置が作動している	●	●								
ゴム製送油管に空気だまりがある	●	●					●			
ゴム製送油管が折れていて、灯油が流れにくい	●	●					●			
定油面器に水、ごみが入っている	●	●					●			
燃焼部にシリコン酸化物が付着している（2ページ参照）	●	●								
ルームサーモが室温を正しく検知していない							●			
煙突の設置が基準通りでない。煙突の横引きが長い								●	●	
燃焼用送風機のファンフィルタにほこりがたまった								●	●	
煙突の工事が不適当のため逆風現象がある	●							●	●	
燃焼リングが変形している								●	●	
強風などにより、煙突の引きが極端に強い	●									
油漏れがある										
フレームロッドにすすが多量に付着した	●				●					
循環ポンプが故障している ※						●				
シスターンの循環水が不足している ※						●				
温水配管がつぶれている。温水ジョイントのコックが閉じている ※						●				
停電があった				●						
バックアップ用電池の寿命										

11.故障・異常の見分け方と処置方法

現 象		説 明
燃 焼 時 ・ そ の 他	炎の一部が揺らぐ。青炎の中に黄色い炎(赤火)が混じる。	異常ではありません。
	煙突の先端から連続的に白煙が出る。	外気温が低くなると、排気ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるため、異常燃焼による白煙ではありません。
	灯油ぎれの際に一瞬炎が大きくなって消火する。	異常ではありません。
	タイマー運転中に表示部の表示が暗い。	待機時の節電のためです。
	「カチカチ」音がする。	電磁ポンプの運転音で異常ではありません。
	ガラス円筒が白くなる。	灯油中の成分がガラス円筒に付着するためです。異常ではありません。
	ストーブ本体から水が蒸発する「ジュツ」という音がする。	結露水が熱交換器内部で蒸発する為です。異常ではありません。
	「給水」表示が点灯している。	循環液が少なくなりました。 「日常の点検・手入れ」(24ページ)を参照してください。
	エコ運転中に消火する。 (「エコ」表示がついている)	室温調節のため消火しました。 14ページの「エコ運転」を参照してください。
	表示部に BB が表示される。 点検時期お知らせ機能(タイムスタンプ)作動	ストーブの点検時期になりました。 20ページの「 ■ BB 表示 点検時期お知らせ機能について」を参照してください。

●次のような現象のときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じてお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

現 象	症 状
点火時・燃焼時・消火時に「ポーン」という大きな音がした。	ストーブが損傷したりパッキンが飛散しているおそれがあります。
黒煙を出して燃えている。	燃焼が異常になっています。
置台に灯油が漏れている。	ゴム製送油管の締付バンドが締まっていない。

★表示部に自己診断モニタが表示されます。

音をたてて燃える	灯油のおいがする	爆発的な燃焼をする	電源が入らない	床暖パネルが あたたまらない ※	沸く音がする ※	振動が大きい ※	電源プラグを差し直す 時刻表示が...と表示する	処 置 方 法
			●					電源プラグをコンセントに確実に差し込む
								ストーブの周囲や煙突の接続部・煙突トップの外れ、油漏れなどの異常がないことを確認してから点火操作をする
								送油バルブを開く
								定油面器リセットボタンを押す
								空気抜きをする(8ページ参照)
								ゴム製送油管の折れを直す。
								お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
								お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
								ストーブ周囲を確認して温風をまき込まないようにする
								お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
								ファンフィルタのほこりをブラシなどで掃除する
		●						お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
●								お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
●								お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
	●							お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
								お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
				●	●	●		お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
				●	●			規定水位まで補充液を入れる
				●	●	●		温水配管のつづれを直す。温水ジョイントのコックを開く
								リセットしてから再点火操作をする
							●	お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。電池がなくなってもバックアップ機能がはたらかないだけで、現在時刻を合わせれば通常どおり使用できます

12. 部品交換のしかた

■ 部品交換のときの注意

❗ 注意

不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは修理資格者〔一般財団法人 日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換は**コロナ純正部品**とご指定ください。

- コロナ純正でない部品を使用の場合には、本体の機能が損なわれたり、事故や故障の原因となります。保証期間内であっても本体の保証が受けられません。

消耗・劣化しやすい部品（交換が必要な部品）

項目	内容
使用期間により交換が必要な部品	ポットバーナ・点火ヒータ・燃焼リング・スケルトン フレームロッド・点火ネット・ガラス円筒 パッキン類およびOリング（メンテナンス時分解した場合は必ず交換が必要です。）
環境により劣化しやすい部品	各種制御基板・燃焼用送風機・ゴム製送油管
変質・不純灯油の使用により劣化しやすい部品	電磁ポンプ・定油面器・フレームロッド

13. 保管（長期間使用しない場合）

シーズン終了時などの長期間使用しないときは、日常の点検・手入れの項（23～25ページ）を参照し、次の要領で保管してください。

1. 電源プラグをコンセントから抜いてください。

⚠ 注意 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

2. 油タンクの送油バルブを閉じてください。

3. ファンフィルタの掃除をしてください。（25ページ参照）

4. 本体のごみやほこりを取ってください。

- 掃除機などでごみやほこりを取り除いてください。

5. しめらせた布で本体の汚れを落としてから、からぶきしてください。

- ベンジン、シンナーなど揮発性の物は使用しないでください。
塗装がはがれたり、樹脂が変形します。

6. ストープは据付けたまま保管してください。

- ストープ内の循環液を抜いて保管する場合は、エア抜きバルブを開いておき、エア抜きバルブ配管内も乾燥させてください。（**UHタイプ**）
- 床暖の配管を接続したままで保管する場合は、上限水位まで補給しておいてください。（**UHタイプ**）
- どうしても取り外して保管される場合は、ポリ袋をかぶせ、乾燥した場所に横倒しにしないようおしまいください。
- 次シーズンに据付けるときには、必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

14.仕 様

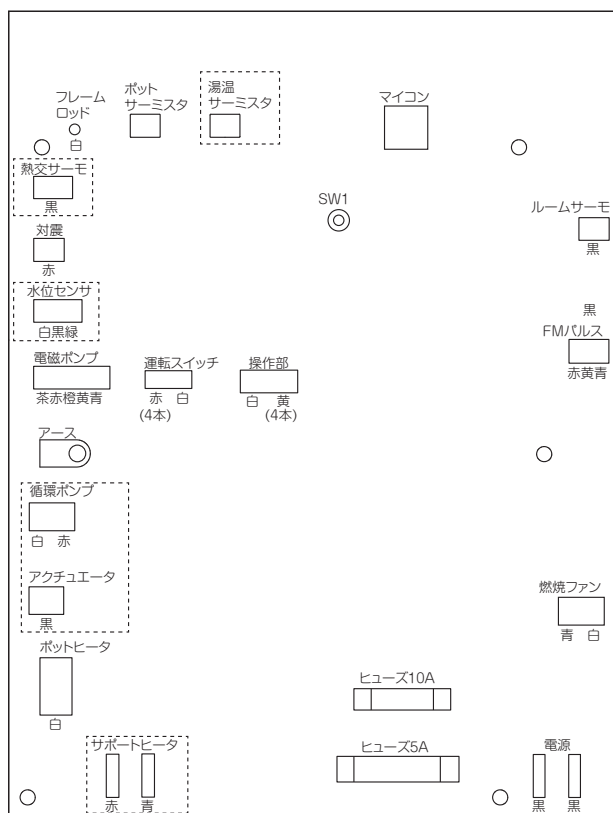
仕 様

注) ※印は(UHタイプ)のみ対象です。

型 式 の 呼 び		UH-7720PK (基本型式 UH-7716PK)		SV-7020PK (基本型式 SV-7016PK)	
種 類	ポット式・強制通気形・自然対流形・*床暖房用				
点 火 方 式	電気点火式				
使 用 燃 料	灯油 (JIS 1 号灯油)				
燃 焼 状 態	最大	最小	最大	最小	
燃料消費量	床 暖 房 運 転	9.72kW (0.945L/h)	2.26kW (0.220L/h)		
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	9.72kW (0.945L/h)	2.26kW (0.220L/h)	10.14kW (0.986L/h)	2.26kW (0.220L/h)
発 熱 量	床 暖 房 運 転	35,000kJ/h	8,150kJ/h		
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	35,000kJ/h	8,150kJ/h	36,520kJ/h	8,150kJ/h
熱 効 率	床 暖 房 運 転	78.8%	81.9%		
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	69.0%	67.0%	69.0%	67.0%
暖房出力	床 暖 房 運 転	7.66 kW 循環水量 150L/h (1回路時) 循環水量 180L/h (2回路時) (別売品使用)	1.86 kW 循環水量 100L/h (1回路時・2回路時)		
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	6.71kW	1.52kW	7.00kW	1.52kW
最大床暖房出力 (床暖房運転)	最大燃焼時 2.09kW	循環水量 150L/h (1回路時) 循環水量 180L/h (2回路時) (別売品使用)			
サポートヒーター出力 (サポートヒーター運転)	0.500kW 循環水量 100L/h				
暖房のめやす	床 暖 房 運 転	温 暖 地	木造 33.0㎡ (20畳) まで コンクリート 44.5㎡ (27畳) まで		
		寒 冷 地	木造 33.0㎡ (20畳) まで コンクリート 53.0㎡ (32畳) まで		
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	温 暖 地	木造 28.0㎡ (17畳) まで コンクリート 39.5㎡ (24畳) まで		木造 29.5㎡ (18畳) まで コンクリート 41.5㎡ (25畳) まで
		寒 冷 地	木造 29.5㎡ (18畳) まで コンクリート 46.0㎡ (28畳) まで		木造 29.5㎡ (18畳) まで コンクリート 48.0㎡ (29畳) まで
本 体 水 容 量	2L (器具内蔵シスターン上限水位時)				
床暖房用熱交換器の最高使用圧力	シスターン大気開放				
外 形 寸 法	高さ 590mm 幅 760mm 奥行 354mm				
質 量	30kg		23kg		
電 源 電 圧 及 び 周 波 数	100V 50/60Hz				
定 格 消費電力	床 暖 房 運 転	点火時 360/360W・最大燃焼時 38/46W			
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	点火時 340/340W・最大燃焼時 17/17W			点火時 340/340W・最大燃焼時 17/17W
	サ ポ ー ト ヒ ー タ ー 運 転	最大運転時 625/625W			
待 機 時 消 費 電 力	1.3W				
床パネルの接続面積	床 暖 房 運 転	4.5~19.5㎡ (3畳~12畳) (最大燃焼時)			
	サ ポ ー ト ヒ ー タ ー 運 転	4.5㎡ (3畳)			
温 水 配 管 接 続 口	外径φ8mmニップル				
煙 突 の 呼 び 径	φ106mm (3寸5分)				
煙 突 の 壁 貫 通 部 の 孔 径	φ110mm				
標 準 ド ラ フ ト 値 (最 大 燃 焼 時)	-7.8Pa (-0.8mmH ₂ O)				
電 流 ヒ ュ ー ス	5A・10A				
安 全 装 置	対震自動消火装置・点火安全装置・燃焼制御装置・停電安全装置				
そ の 他 の 装 置	再点火安全装置・過電流防止装置・燃焼用送風機異常検出装置 安全サーミスタ・*サポートヒーター過熱防止装置・*循環水過昇防止装置				
付 属 品	*バックチューブ(2.5m)1本・*ホースバンド2個・遮熱板1個・ゴム製送油管(1m)1本 ゴム製送油管締付バンド2個・取扱説明書				

備考) 暖房のめやすは、一般社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

プリント配線板 端子配置図



注) 印端子部は (UHタイプ) のみ対象です。

15.アフターサービス

■保証について

- このコロナ半密閉式石油ストーブには保証書がついています。(裏表紙に印刷されています。) 保証書は、必ず「お買いあげ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 保証期間はお買いあげ日から1年間です。
- 次のような原因による故障および事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。
 - ・変質灯油や不純灯油などの不良灯油、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
 - ・誤った使用方法による故障や事故。
 - ・シリコンが原因の修理、シリコン配合の商品を使用したとき。

■修理を依頼されるとき

- 「故障・異常の見分け方と処置方法」(27~28ページ)の項に従ってお調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。
- ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
 - ① 品名
 - ② 型式の呼び
 - ③ お買いあげ日
 - ④ 故障状況(できるだけ具体的に)
 - ⑤ ご住所・お名前・電話番号
 ・品名と型式はストーブに向かって左側面に表示してあります。
- 修理に際しては、保証書をご提示ください。保証期間中であれば保証書の規定に従って無料修理させていただきます。
- ご不明な点や修理に関するご相談は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。

■保証期間が過ぎているときは

- お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。修理によって使用できる製品についてはお客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の保有期間

- 石油ストーブの補修用性能部品(機能を維持するために必要な部品)の保有期間は製造打ち切り後7年です。

16. 据付け・移設

試運転

試運転は販売店または据付業者とご一緒に必ず行ってください。

■ 運転準備

※印は (UHタイプ) のみ対象です。

⚠️ 注意 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。

- 現在時刻を確認してください。現在時刻がずれている場合は、「現在時刻の合わせ方」(15ページ)を参照し、合わせてください。
- 油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。「■燃料切れの注意と空気抜きの方法」(8ページ)を参照してください。
- 送油経路やストーブより油漏れがないか確認してください。
- 定油面器をセットしてください。「■安全装置のセット、取扱い上の注意」(9ページ)を参照してください。

※●シスターンタンク内に循環液がないときは、循環ポンプを運転させないでください。故障の原因になります。

■ 循環液の給水方法 (UHタイプ)

●循環液の給水で循環ポンプを運転するときは、手順4と5の方法で行ってください。

ご注意 サポートヒーターボタンは使用しないでください。故障の原因になります。

1. 給水前にエア抜きバルブが全開になっていることを確認してください。
(工場出荷時には全開になっています。)

2. ストーブの左背面にある行きと戻り両方の温水ジョイントのcockを「開」にしてください。

●配管途中にバルブがある場合は、バルブを全開にしてください。

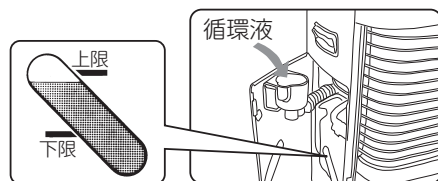
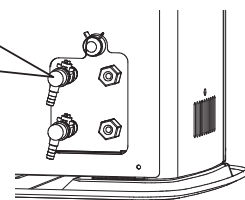
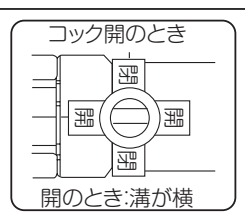
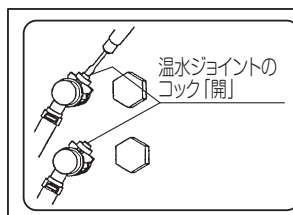
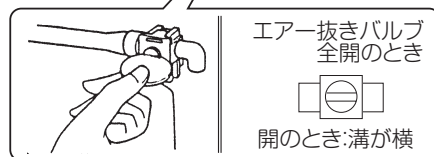
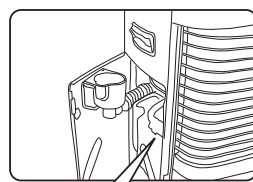
3. シスターンタンクの上限水位まで循環液(コロナ床暖房用循環液)を入れてください。

4. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。

5. 床温調節ボタンを5秒間押し続けてください。(給水モード)

- 循環ポンプが運転を開始します。
- 表示部の「床暖」と「設定床温」表示が点滅します。

●水漏れがあった場合は、床温調節ボタンを押して循環ポンプを停止させてください。



6. シスターンタンクの水位が下がるので上限水位まで循環液を給水してください。

(シスターンタンクの水位が下がらなくなるまで給水を続けてください。)

●上限水位になると満水お知らせ(お知らせ音 ピピピッ)が繰り返し鳴ります。

●エアーが抜けきらない場合は、床暖切換スイッチを「ストーブ単独」⇔「ストーブ床暖」側に何度か切り換えてください。

循環ポンプの「入/切」が行えるので、エアーが抜けやすくなります。



●満水お知らせはめやすです。循環液の補給は必ずシスターンタンクの水位計を確認しながら行き、規定水位の「上限」以上補給しないでください。使用中に循環液があふれることがあります。

●温水配管施工などの関係で、エアー抜きバルブではエアーが抜けきらない場合は、次の方法があります。

〔温水行き口のcockを「閉」にして温水配管接続をはずし、cockを開いて循環液を少しずつ流し、エアーを抜く。(循環液がこぼれないように容器を用意してください。)]



※温水配管内のエアー抜きが不十分だと循環音が大きくなる場合があります。この場合は再度エアー抜きを行ってください。

7. シスターンタンクの水位が下がらなくなったらエアー抜きバルブを必ず「閉」にしてください。

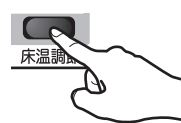
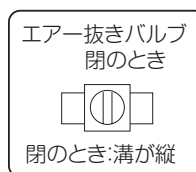
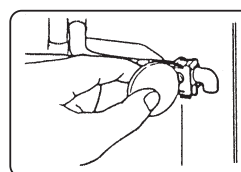
8. 温水配管路に水漏れのないことを確認してください。

9. 水漏れのないことを確認したら給水は完了です。床温調節ボタンを押してください。

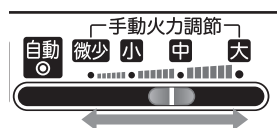
●循環ポンプが停止します。

●表示部の「床暖」と「設定床温」表示が消灯します。

●満水お知らせが停止します。



■運転 ※印は (UHタイプ) のみ対象です。



※ 1. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」にセットしてください。

2. 運転スイッチを押して「入」にしてください。

●“点火します”の音声と同時に運転スイッチが点灯し、「運転中」表示が点滅します。

●約3~4分間の予備燃焼が終わると本燃焼になります。着火までに異常がないことを確認してください。

●予備燃焼後約2.5分間、火力は中火力になります。この間は火力の変更はできません。

※ 3. 温水配管経路に水漏れのないことを確認してください。

※ ●運転の途中で温水配管経路に水漏れがあった場合

①操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切り換えて循環ポンプを停止させてください。

②運転スイッチを押して「切」にしてストーブの運転を停止してください。

4. 火力調節つまみを「微少」~「大」に設定してください。

●燃焼中の炎に黄色い炎(赤)火が混じったり、かたよったり、上下変動することがありますが、異常ではありません。

※ 5. 床暖パネルが暖くなることを確認してください。

●正常運転のめやすとして「故障・異常の見分け方と処置方法」(27~28ページ)のような現象のないことを確認してください。



16.据付け・移設

■消火の手順 ※印は (UHタイプ) のみ対象です。



- 運転スイッチを押して「切」にしてください。
“消火します”の音声と同時に運転スイッチと「運転中」表示が消灯し、消火します。
消火後は、本体内部が冷却するまで送風を継続し、約10分後に燃焼用送風機、※循環ポンプが停止します。

お願い

- 長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順にしたがい、試運転を行ってください。

⚠注意 初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気を行ってください。また、小鳥や小動物などに影響する場合がありますので、この間は部屋に入れないでください。

- お部屋の窓を少し開け、半日から1日程度「大火力」運転をしてください。

■工事編

1. 特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください)

この工事説明書には、安全に正しく据付けていただくために、いろいろな絵表示が記載されています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みになり据付工事を行ってください。



警告 この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が、死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が、軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は一般的な注意)が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。



Ⓛ記号は行為を指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

⚠ 警告

●据付けや移設は、販売店または据付業者が行ってください。

お客様ご自身で据付けをされ、不備があると感電や火災の原因になります。

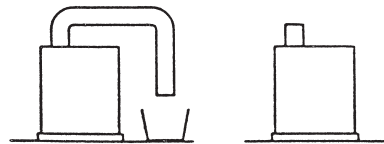


●据付けは火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準を守って行ってください。



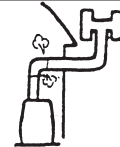
●屋内排気禁止

屋内に排気すると、排ガスが室内に充満して危険です。
必ず屋外に排気してください。



●煙突を確実に接続

煙突を確実に接続し、しっかりと固定してください。風、振動、衝撃などで外れたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



⚠ 注意

●次の場所には据付けない 火災や予想しない事故の原因になります

- ・水平でない場所、不安定な場所
- ・不安定な物をのせた棚などの下
- ・可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- ・燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入口のない場所または換気が行えない場所
- ・付近に燃えやすいものがある場所
- ・階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- ・マントピースやペチカ
- ・温室、飼育室など人のいない場所

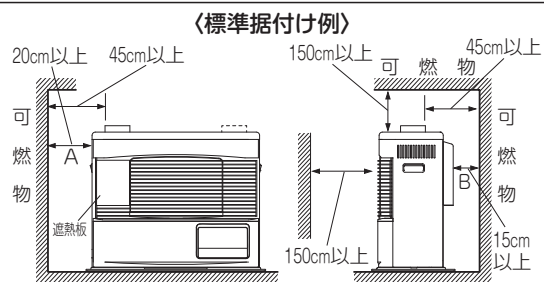


●可燃物との距離を離す

- ・ストーブ及び煙突から周囲の可燃物までの離隔距離は火災予防条例で規定されています。図のようにしてください。また可燃物側には必ず前面ガードに遮熱板を取り付けてください。
- ・ストーブは付属の置台の上に据付けてください。

- ストーブ側面と可燃物は30cm以上(A寸法)離してください。20cmまで近づける場合には、前面ガードに付属の遮熱板を取り付けてください。ただし、煙突と可燃物との離隔距離は45cm以上離してください。
- B寸法は15cm以上と示していますが、煙突と可燃物との離隔距離(45cm以上)でも規制されます。
- テレビやラジオから1m以上離してください。

※不燃物の場合でも性能維持のため上図離隔距離をとってください。

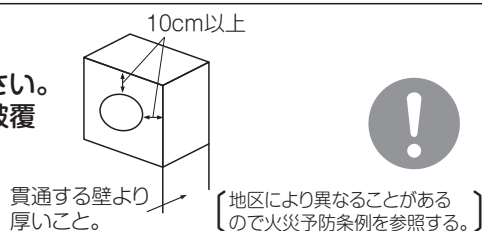


1.特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

⚠ 注意

●家屋貫通部の注意

- ・煙突が可燃性の壁などを貫通する部分は必ずめがね石を使用してください。
- ・小屋裏、天井裏などにある部分は金属以外の不燃材料で防火上有効な被覆を行ってください。
- ・可燃性の壁・天井・小屋裏・天井裏などを貫通する部分及びその付近では煙突の接続はしないでください。



●煙突の固定

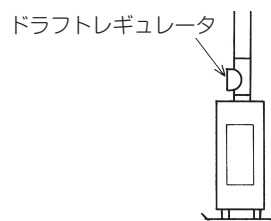
- ・煙突は、風や振動などで倒れないよう支え金具や支え線などで固定してください。
- ・煙突は、1.5~2mおきに固定金具で固定し、自重を支える部分は支えまたは吊り金具で堅固に支持してください。



●ドラフトレギュレータの取り付け

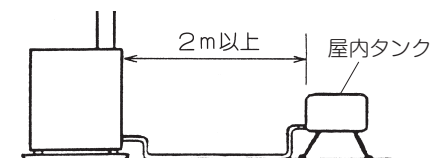
煙突の引き(ドラフト)が強いと燃焼不良が発生します。次の煙突設置の場合は必ずダブルドラフトレギュレータ(別売品DR-1)を取り付けてください。

- ・集合煙突に接続する場合・標準寸法以上に立ち上がりが高い場合
- ・風が強くて炎が沈むような場合



●油タンクとの距離を離す

- ・油タンクはストーブより2m以上離して据付けるか防火上有効な遮へいを設けてください。
- ・据置式のタンクは、不燃材の床上に据付けてください。
- ・屋内タンクを使用する場合は、送油ホース(別売品 OS-4)を使用し、ストーブと屋内タンクを2m以上離してください。



●ゴム製送油管の屋外使用禁止

ゴム製送油管は屋外で使用しないでください。ひび割れを生じて油漏れの原因になります。



●ストーブ交換時にはゴム製送油管を交換

ストーブ交換時には既設のゴム製送油管を必ず交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などが無い場合でも新しいものに交換してください。交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。



●送油管取り付け時の確認

既設の油タンクを使用する場合は、送油管をストーブに取り付ける前に、油タンクからの灯油をバケツなどの容器で受け、油タンク内に水、ごみ、さびなどがいないことを確認してから取り付けてください。油タンク内に水、ごみ、さびなどがたまっているとストーブの故障の原因になります。



●アース工事をする(UHタイプ)

アース工事を確実に行ってください。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。



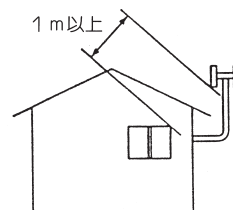
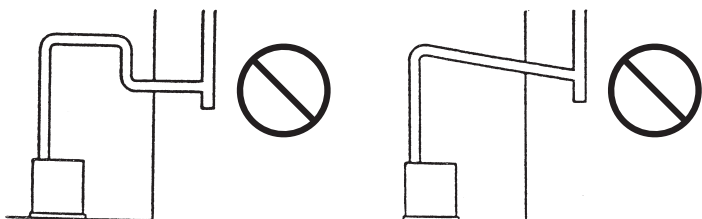
●煙突の点検

据付けが終わったら、もう一度点検してください。次のような取付けは、危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがあるので、必ず修正してください。



・下り勾配、下向き曲がり禁止

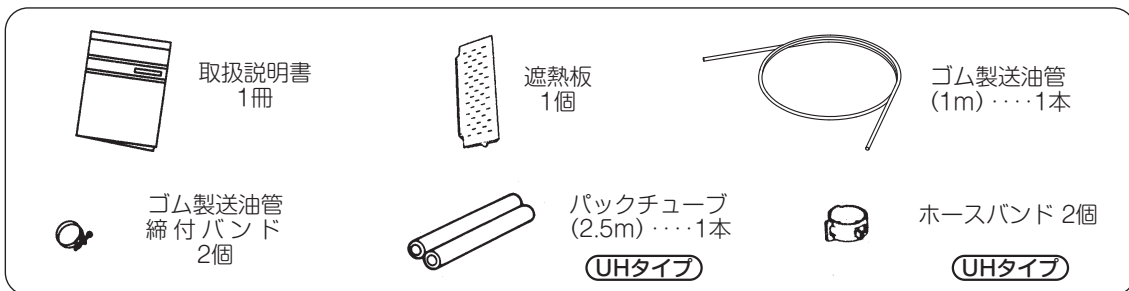
・トップと建物の開口部は1m以上離れていること



2.開こん

- ダンボール箱からストーブを取り出し、パッキン材・テープ・ちらし類などを取り除いてください。
- 梱包箱には、次の付属品が入っていますので確認してください。

部 品 名	個数	用 途
ゴム製送油管 (1m)	1	給油コックとストーブの接続に使用します。(屋内タンクを使用する場合は、送油ホース(別売品OS-4)を使用しストーブと屋内タンクを2m以上離してください。)
ゴム製送油管締付バンド	2	ゴム製送油管接続部の締付け
遮 熱 板	1	ストーブから側面可燃物までの離隔距離が短い場合、前面ガードに取り付ける
取 扱 説 明 書	1	
パッキューブ・ホースバンド(2個)	1	床暖パネル接続用 (UHタイプ)



3.据付け

据付け場所の選定

据付けについては火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。36～37ページの「特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)」をお読みになり、販売店または据付業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、36ページ、また、「煙突の取付け」については41～42ページを参照してください。

ご注意 ● マントルピースやベチカに据付けしないでください。煙突をベチカに接続しないでください。ストーブが故障したり、火災や予想しない事故の原因になります。

■性能維持のための空間

ストーブは燃焼用空気が必要です。火災予防または性能維持のためにもあまり狭い場所で使用せず、換気しやすい場所で使用してください。

■電気コンセントの位置

歩行者が電源コードを引っかかない位置にある専用コンセント(AC100V)をご使用ください。

(電源コードの長さは約2mです)

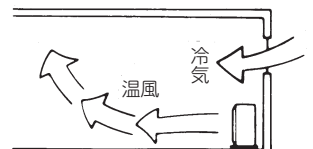
電源コードが煙突などの高温部にふれない位置を選定してください。

■標高は1000mを超える高地では使用しないでください。

空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。

■効果的に使用するために

冷気の入ってくる方向、例えば窓側などに置くと、冷気がストーブで温められ温風として対流しますので、効果的です。



3.据付け

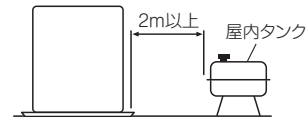
据付け方法

■ルームサーモ

- ルームサーモはストーブの背面に固定されています。設置場所および煙突の設置によっては、ルームサーモが室温を正しく感知できないことがあります。
このような場合は、延長ルームサーモ（別売品RTH-21P）をご使用ください。

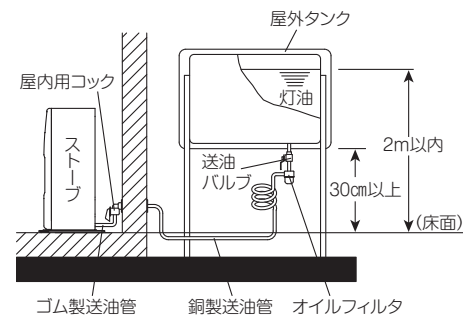
■油タンクの組立てと据付け（別売品）

- 組立ては、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。
- 油タンク油面はストーブ本体設置床面より高さを30cmから2m以内で設置してください。
- 油タンクとストーブとの送油管の間に必ずごみを除くためのオイルフィルタを取り付けてください。送油経路にごみがたまると、灯油の流れを妨げて十分な火力が出なくなります。
- 油タンクの据付けは、各地の火災予防条例に従ってください。
- 油タンクは、ストーブとの間に防火上有効な壁などが無い場合は、2m以上離してください。火災の原因になります。



ご注意

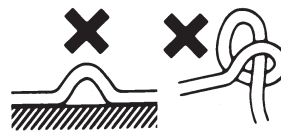
- 屋内タンクを使用する場合は、送油ホース（別売品 OS-4）を使用し、ストーブと屋内タンクを2m以上離してください。
- 油タンクは、油タンク内の油面がストーブ設置床面より2m以上高くなるところには据付けしないでください。
灯油が定油面器よりあふれ出ることがあります。
- 油タンクは熱・振動・衝撃の少ない場所に据付けてください。



■ゴム製送油管の取り付け方



- ゴム製送油管にゴム製送油管締付バンドをはめてから、油タンクとストーブのゴム管口に十分押しこみ、ゴム製送油管締付バンドで強く締め付けてください。



- ゴム製送油管の途中が山形になったり、もつれたりしていると、空気がたまって灯油が流れないことがあります。
平らになるように直してください。

⚠注意 ゴム製送油管屋外使用厳禁
ゴム製送油管を屋外で使用しないでください。
ひび割れを生じて油漏れの原因になります。

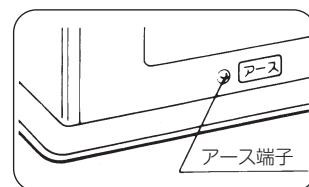
- ゴム製送油管は、JIS-S3022「石油燃焼機器用ゴム製送油管」に合格したもの以外は使用しないでください。
- ゴム製送油管は、きつく曲げたり、丸めたりしないようにしてください。
- 紫外線が当たると劣化が早くなります。日光が当たらないようにしてください。
- ゴム製送油管の上に物をのせたり、重量物がのったりしないようにしてください。灯油の補給が妨げられます。

■金属配管(銅製送油管)施工の場合の注意

- 定油面器へのごみの侵入を防ぐため、配管工事終了後、ストーブと接続する前には必ず配管内に灯油を流して切粉・ごみなどを取り除いてください。定油面器から油があふれたり、電磁ポンプが故障する原因になります。

■接地（アース）（UHタイプ）

- ストーブの背面下部にあるアース端子を使用してください。
接地工事はD種接地工事を行ってください。



■床暖パネルを敷設しないとき（UHタイプ）

- 床暖切換スイッチは必ず「ストーブ単独」にセットして使用してください。

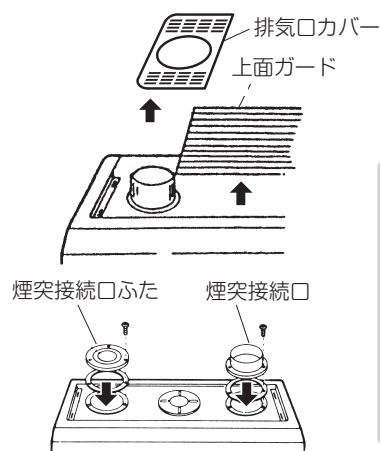
■電気配線

- テレビやラジオから1m以上離してください。
- 電源は、適正配線された単相100Vのコンセント以外は使用しないでください。
発熱・発火の原因になります。
- 電源コードは、途中で接続したり、延長コードの使用・他の電気配線とのタコ足配線をしないでください。
発熱・発火の原因になります。

■煙突の左右を変更する場合

煙突の左右を変更する場合は、次のように行ってください。

1. 上面ガード・排気口カバーを外してください。
2. 煙突接続口を固定している3本のねじを外し、中のパッキンを損傷ないように煙突接続口を外してください。
3. 煙突接続口ふたを固定している3本のねじを外し、中のパッキンを損傷ないように煙突接続口ふたを外してください。
4. 組み込みは逆の要領で組み換えてください。



煙突接続口、パッキンおよび煙突接続口ふたは取り付けの方向性があります。取り付け用のねじの位置を確かめて取り付けてください。

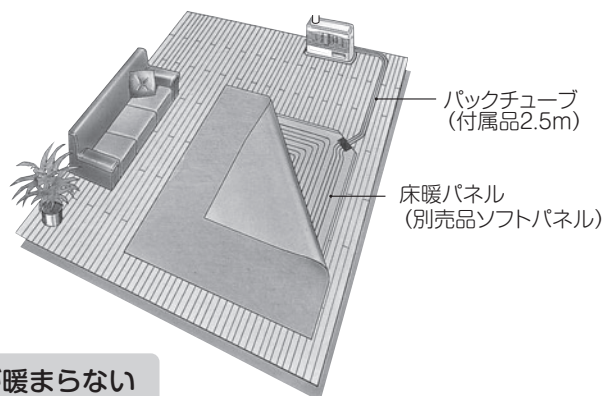
■床暖パネルの敷設（UHタイプ）

- 床暖パネルはコロナ純正の床暖パネルを使用してください。
- 1回路の敷設置数は、3畳以上にしてください。3畳未満の場合は、床暖パネルが熱くなりすぎることがあります。
- 2回路配管にすることで最大12畳までの床暖ができます。
- 床暖房能力はストーブの火力によって変化します。
下記の表をめやすに床暖パネルの敷設置数を決めてください。

〈床暖パネル敷設置数のめやす〉

畳数	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
火力	微少	小火力		中火力			大火力			

(床暖房能力は使用火力によって変化します。)



標準システム例

ご注意

- 床暖パネルの敷設置数が多すぎると温度ムラや床暖パネル全体が暖まらないことがあります。
- ストーブと同じ部屋に床暖パネルを敷設することをおすすめします。
ストーブと違う部屋に床暖パネルを敷設する場合は、補助暖房として使用してください。
- ソフトパネルやパックチューブには循環液の循環の妨げとなる重いものをのせたり、折れや配管のつぶれがないようにしてください。

3.据付け

■2回路配管 (UHタイプ)

●別売品「ヘッダー」(USA-7)を使用する場合

- 温水行き口、戻り口に別売品「ヘッダー」をそれぞれに取り付けてください。
- 「温水ジョイント」および「ヘッダー」の接続部は別売品「ホースバンド」(USA-12)で固定してください。

●別売品「温水バルブ」(USA-44)を使用する場合

- 別売品「温水バルブ」(USA-44)に付属の取扱説明書に従って取り付けてください。

ご注意

- 最低一回路は常時循環液が流れるような配管をしてください。
各回路が全閉止すると熱交サーモが作動して、床暖房運転を停止することがあります。(2回路閉止になることのないようにしてください。)

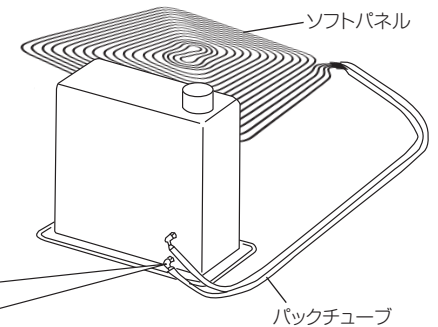
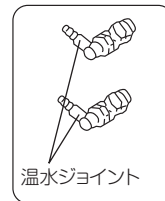
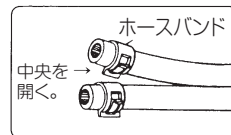
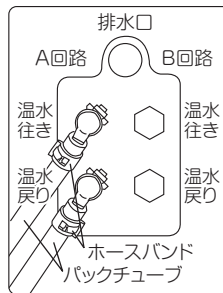
■パックチューブの接続 (UHタイプ)

- ストーブに付属のパックチューブの長さは2.5mです。2.5m以上必要な場合は別売品「パックチューブ」(USA-13)を使用してください。

- パックチューブを左背面にある温水ジョイントおよび、ソフトパネルにホースバンドで固定してください。

ご注意

- 2回路配管(2部屋)の場合はA回路・B回路のそれぞれ、温水行き口・温水戻り口が間違いなく配管されていることを確認してください。



4.煙突の取付け

■煙突の径

- 煙突は直径106mm(3寸5分)を使用してください。
- さびやすい素材の煙突は、腐食やさびにより煙突がふさがれたりしますので、使用しないでください。

■横引き、立ち上がりの標準寸法

- 煙突の立ち上がり、横引きの標準寸法は、立ち上がり約3.6m(4本)、横引き約1.8m(2本)です。
横引きが標準寸法より長くなる場合は、その長さの1/2を立ち上がりに追加してください。
(結露予防のため、煙突の横引き長さはできるかぎり短く、2m以内にしてください。)
- 屋外の立ち上がり部の下端には、水抜きをつけて雨水が入るのを防いでください。
- 横引きは10分の1以上の上り勾配になるようにしてください。
- 横引きはできるだけ短くし、バンド(エビ曲)は3個以下になるようにしてください。また、露受けアダプター(別売品)などの取り付けもご検討ください。工事店とよくご相談ください。
- 1本の煙突を他のストーブなどと共用することは避けてください。燃焼が悪くなります。

■煙突先端(トップ)の位置

- 煙突トップは、屋根面から垂直距離60cm以上離してください。
- 煙突トップから水平距離1m以内に隣接家屋などの軒があるときは、さらにそれより、60cm以上離してください。
- 窓などの開口部からは1m以上離してください。
- 煙突トップの位置は建物・立木などの状態をみて、あらゆる方向の風が通り抜ける位置にしてください。

煙突の取付け

■トップの形状

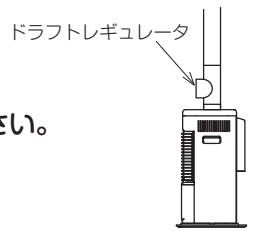
- 煙突トップには、逆風防止のための「傾斜H型トップ」を取り付けてください。

■ドラフトレギュレータ（別売品）の取付け

⚠️注意 煙突の引き（ドラフト）が強いと燃焼不良が発生します。

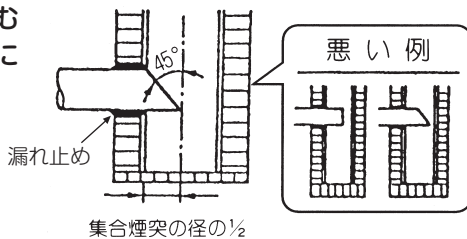
次の煙突設置の場合は必ず、ダブルドラフトレギュレータ（別売品DR-1）を取り付けてください。

- 集合煙突に接続する場合
- 標準寸法以上に立ち上がりが高い場合
- 風が強くて炎が沈むような場合

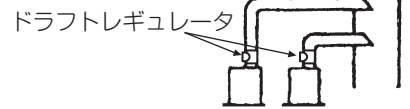


■集合煙突を利用する場合のご注意

- 集合煙突に差し込む先端は右図のようにしてください。



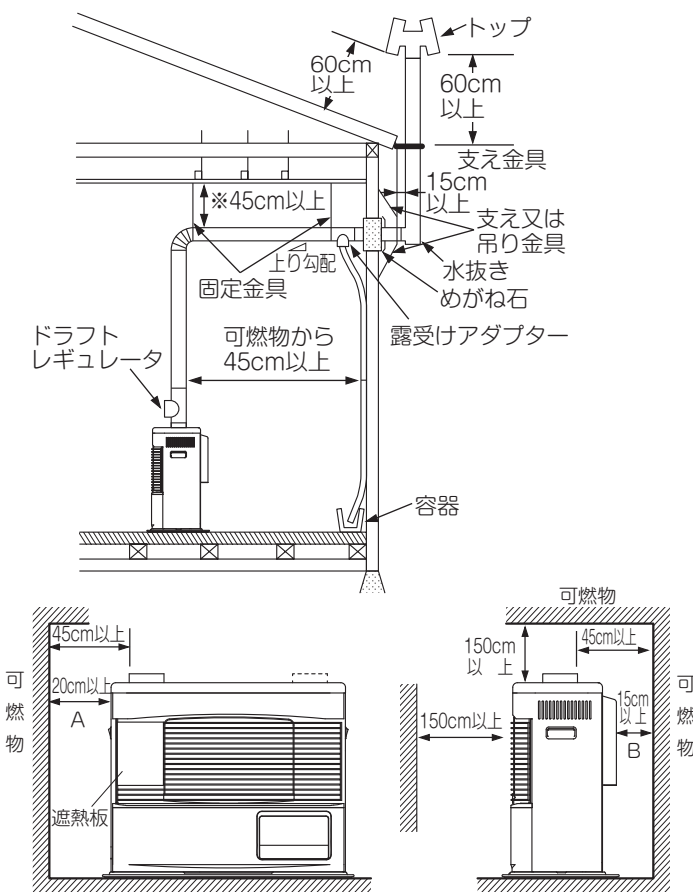
- 2つ以上のストーブを使用するときは、横引部分の長い方を上にしてください。



- 集合煙突を利用する場合は、設置方法などについて必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談してください。

■煙突の取り付け図

煙突の取り付け図



煙突の先端から水平距離1m以内に建物の軒がある場合は、その軒から60cm以上高くすること。煙突の先端から1m以内に建物の開口部（窓）がないこと。

- ※印寸法は、煙突が本体から1.8mを超える場合は15cm以上にしてください。
 - 煙突は、固定金具で1.5～2m間隔に固定すること。
 - 設置の場所は当該地区の火災予防条例にしたがってください。
 - 風の強い地域では、必ずドラフトレギュレータを取り付けてください。
 - 結露水が出る場合には、露受けアダプターを取り付け排出した結露水は、容器に受けてください。
- 〔結露予防のため、煙突の横引き長さはできるかぎり短く、2m以内にしてください。〕

- ストーブ側面と可燃物は30cm以上（A寸法）離してください。20cmまで近づける場合には、前面ガードに付属の遮熱板を取り付けてください。ただし、煙突と可燃物との離隔距離は45cm以上離してください。
- B寸法は15cm以上と示していますが、煙突と可燃物との離隔距離（45cm以上）でも規制されます。
- テレビやラジオから1m以上離してください。

※左図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も左図離隔距離をとってください。

■結露水の処理

- 煙突の横引き部に結露水が出る場合は、別売の露受けアダプター（USB-1）また、集合煙突の凍結予防には集合煙突凍結防止ヒータ（USB-3）をご使用ください。お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

5. 試運転

試運転は使用者とご一緒に必ず行ってください。

■循環液 (UHタイプ)

- 循環液には、必ずコロナ純正床暖房用循環液 (UPF) をご使用ください。コロナ純正循環液は、凍結予防の他に床暖房に使用される機器 (ストーブ・床暖パネル・配管部品など) の防錆効果を目的に作られた循環液です。

■給水準備 (UHタイプ)

1. 必要な循環液を用意してください。(標準システム例の場合)

部品名	循環液量		
ストーブ本体	2L	ストーブ本体容量	2.0L
ソフトパネル4.5畳用	3.7L	ソフトパネル4.5畳用	3.7L
バックチューブ	0.1L/m	バックチューブ(付属品2.5m)	0.25L
		計	5.95L

約6Lの循環液を用意してください。

- コロナ純正循環液はすでに適正な濃度に調合してあるので、そのままストーブに入れてください。
- 他社銘柄の防錆剤、不凍液 (特に車両用など) を使用したり、混合すると防錆効果が発揮されず機器の耐久性がそなわれたり、粘度があわずポンプの性能が十分発揮せず、沸騰してしまうことがあります。
- 循環液は、常温では引火しませんが、加熱されたストーブの上などにかかると着火することがありますので取り扱いには十分注意してください。
- 循環液は、3年をめやすに入れかえてください。(開封した循環液も含む)
- 循環液の凍結温度は、 -20°C に調合されています。

2. 電源プラグをコンセントに差し込んでください。

■運転準備 ※印は (UHタイプ) のみ対象です。

⚠注意 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。

- 現在時刻を確認してください。現在時刻がずれている場合は、「現在時刻の合わせ方」(15ページ)を参照し、合わせてください。
- 油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。「燃料切れの注意と空気抜きの方法」(8ページ)を参照してください。
- 送油経路やストーブより油漏れがないか確認してください。
- 定油面器をセットしてください。「安全装置のセット、取扱い上の注意」(9ページ)を参照してください。

※●シスタータンク内に循環液がないときは、循環ポンプを運転させないでください。故障の原因になります。

■循環液の給水方法 (UHタイプ)

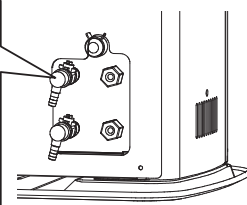
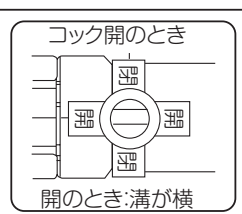
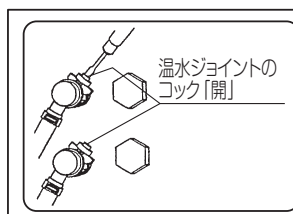
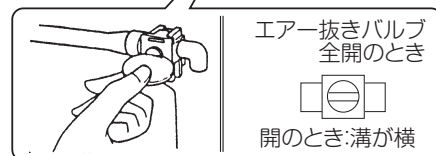
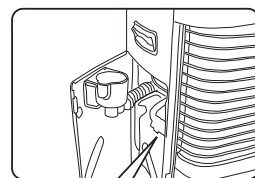
- 循環液の給水で循環ポンプを運転するときは、手順4と5の方法で行ってください。

ご注意 サポートヒーターボタンは使用しないでください。故障の原因になります。

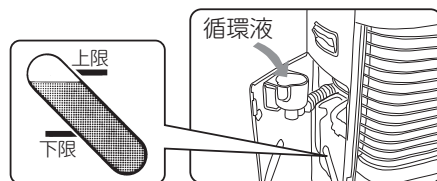
1. 給水前にエア抜きバルブが全開になっていることを確認してください。(工場出荷時には全開になっています。)

2. ストーブの左背面にある行きと戻り両方の温水ジョイントのcockを「開」にしてください。

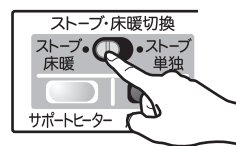
- 配管途中にバルブがある場合は、バルブを全開にしてください。



3. シスターンタンクの上限水位まで循環液（コロナ床暖房用循環液）を入れてください。



4. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。



5. 床温調節ボタンを5秒間押し続けてください。（給水モード）

- 循環ポンプが運転を開始します。
- 表示部の「床暖」と「設定床温」表示が点滅します。



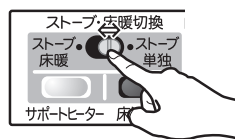
- 水漏れがあった場合は、床温調節ボタンを押して循環ポンプを停止させてください。



6. シスターンタンクの水位が下がるので上限水位まで循環液を給水してください。（シスターンタンクの水位が下がらなくなるまで給水を続けてください。）

- 上限水位になると満水お知らせ（お知らせ音 ピピピピッ）が繰り返し鳴ります。

- エアが抜けきらない場合は、床暖切換スイッチを「ストーブ単独」⇄「ストーブ床暖」側に何度か切り換えてください。循環ポンプの「入/切」が行えるので、エアが抜けやすくなります。



- 満水お知らせはめやすです。循環液の補給は必ずシスターンタンクの水位計を確認しながら行い、規定水位の「上限」以上補給しないでください。使用中に循環液があふれることがあります。

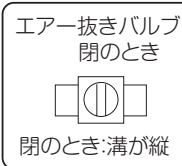
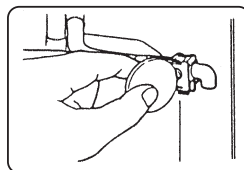
- 温水配管施工などの関係で、エア抜きバルブではエアが抜けきらない場合は、次の方法があります。

温水行き口のcockを「閉」にして温水配管接続をはずし、cockを開いて循環液を少しずつ流し、エアを抜く。（循環液がこぼれないように容器を用意してください。）

- ※温水配管内のエア抜きが不十分だと循環音が大きくなる場合があります。この場合は再度エア抜きを行ってください。



7. シスターンタンクの水位が下がらなくなったらエア抜きバルブを必ず「閉」にしてください。



8. 温水配管路に水漏れのないことを確認してください。

9. 水漏れのないことを確認したら給水は完了です。床温調節ボタンを押してください。

- 循環ポンプが停止します。
- 表示部の「床暖」と「設定床温」表示が消灯します。
- 満水お知らせが停止します。



5. 試運転

■ 運転 ※印は (UHタイプ) のみ対象です。

- ※ 1. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」にセットしてください。
- 2. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
 - “点火します” の音声と同時に運転ボタンが点灯し、「運転中」表示が点滅します。
 - 約3～4分間の予備燃焼が終わると本燃焼になります。着火までに異常がないことを確認してください。
 - 予備燃焼後約 2.5 分間、火力は中火力になります。この間は火力の変更はできません。
- ※ 3. 温水配管経路に、水漏れのないことを確認してください。



- 運転の途中で温水配管経路に水漏れがあった場合
 - ① 床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切り換えて循環ポンプを停止させてください。
 - ② 運転スイッチを押して「切」にしてストーブの運転を停止してください。

- 4. 火力調節つまみを「微少」～「大」に設定してください。
 - 燃焼中の炎に黄色い炎（赤火）が混じったり、かたよったり、上下変動することがありますが、異常ではありません。



- ※ 5. 床暖パネルが暖くなることを確認してください。
 - 正常運転のめやすとして「故障・異常の見分け方と処置方法」(27～28ページ) のような現象のないことを確認してください。



■ 消火の手順 ※印は (UHタイプ) のみ対象です。

- 運転スイッチを押して「切」にしてください。“消火します”の音声と同時に運転ボタンと「運転中」表示が消え、消火します。消火後は、本体内部が冷却するまで送風を継続し、約10分後に燃焼用送風機、※循環ポンプが停止します。
- 表示部と操作部の保護フィルムがはがれている場合や傷が付いている場合は、お客様に確認をとってからはがしてください。



お願い

- 長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順にしたがい、試運転を行ってください。

⚠ 注意 初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気を行ってください。また、小鳥や小動物などに影響する場合がありますので、この間は部屋に入れしないでください。

- お部屋の窓を少し開け、半日から1日程度「大火力」運転をしてください。

6. 廃棄するときの注意

- ストーブを廃棄処分するときは、定油面器の灯油を抜き取ってください。灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。



お客様ご相談窓口

修理サービスや製品についてのご相談は型式名をご確認の上、お買いあげの販売店または下記の窓口にご依頼ください

電話番号やアドレスは変更する場合がありますのでご了承ください。

コロナサービスセンター（全国共通番号 365日24時間受付）

TEL フリーダイヤル  **0120-919-302**

携帯電話 PHS ナビダイヤル  **0570-550-992**

ナビダイヤルの通話料はお客様負担となります。

修理・アフターサービスに関するお問い合わせ

<https://www.corona.co.jp/support/service/>



- 365日24時間修理依頼ができます。
- 部品保有年限が経過している製品は受付しないこともあります。
- 右記QRコードからアクセスできます。

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



コロナ公式オンラインストア

お客様ご自身で簡単に交換いただける純正部品、別売部材を販売しております。製品内部の部品や交換の際に資格や技術が必要となる部品などは販売しておりません。

補修用性能部品の保有期間が過ぎている部品は、取り扱いを終了している場合があります。下記アドレスページ内の対応型式をよくご確認ください。



CORONA 公式オンラインストア

コロナストア

<https://ec.coronaweb.com/shop/>

(コロナ公式ホームページからもアクセスできます)



株式会社 **コロナ**

〒955-8510 新潟県三条市東新保7-7

TEL(0256) 32-2111 <代表>

ホームページ <https://www.corona.co.jp/>

コロナ 石油ストーブ保証書

型式	ご購入機種に○を付けてください。	
	SV-7020PK	UH-7720PK
★ お 客 様	お名前 様	
	ご住所 〒(-)	
	電話 () -	

本書は、本書記載内容で無料修理を行なうことをお約束するものです。
お買いあげの日から左記期間中故障が発生した場合は、本書をご提示のうえ、お買いあげの販売店に修理をご依頼ください。

●ご販売店様へ
お買いあげ日、貴店名、住所、電話番号をご記入の上（★印欄に記入のない場合は、無効となります）、本書をお客様へお渡しください。

★お買いあげ日	年 月 日	★ 販 売 店	住所・店名
保証 期 間	対象部分 期 間 (お買いあげ日より)		電話 () -

見本

●お客様へお願い
お手数ですが、ご住所、お名前、電話番号をわかりやすくご記入ください。
販売店の記載がないときは、それを証明する領収書などが必要となりますので、一緒に保管してください。

《無料修理規定》

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で保証期間中に故障した場合には、お買いあげ販売店が無料修理致します。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示のうえ、お買いあげの販売店に依頼してください。
なお、離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理をおこなった場合には、出張に要する実費を申し受けます。
また、本品を直接送付される場合の送料は、お客様の負担となります。
- ご転居の場合は事前にお買いあげ販売店にご相談ください。
- ご事情により、本保証書に記入してあるお買いあげ販売店に修理をご依頼できない場合には、お客様ご相談窓口（本書46ページに記載）にお問合せください。
- 次の場合には保証期間内でも保証の対象外となります。
(イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
(ロ) 取扱説明書、本体表示等によらないで使用された場合、または適切な点検・手入れを行わなかったことにより発生した不具合
(ハ) お買いあげ後の取付場所の移動、輸送、落下等による故障および損傷
(ニ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害および、変質灯油、不純灯油、異質油（灯油以外の油又は混入）、シリコン配合商品が原因による故障および損傷
(ホ) 業務用としての使用、車両、船舶への搭載など一般家庭用以外に使用された場合の故障および損傷
(ヘ) 本書にお買いあげ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
通信販売などでご購入したときは、商品の送り状・領収書などの提示がない場合。
(ト) 据付け工事の不備による故障
(チ) 本書の提示がない場合
(リ) 点検整備、および消耗品（Oリング、各種パッキン類、ゴム製送油管）の交換をされる場合
(ヌ) 定期点検の費用
- 本書は日本国内においてのみ有効です。This guarantee is valid in Japan only.
- 本書は再発行致しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
従ってこの保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口（本書46ページに記載）にお問合せください。
※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは取扱説明書(本書31ページに記載)をご覧ください。
※アフターサービスや製品についてのお問い合わせは、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口（本書46ページに記載）にお問い合わせください。

株式会社 **コロナ**

〒955-8510 新潟県三条市東新保7-7
TEL(0256) 32-2111 <代表>

ホームページ <https://www.corona.co.jp/>